

1634

明治十六年

元老院會議筆記

自第三百七十六号
至第四百二十一号

記錄課

司 法 省 文 庫			
和	雜	三	一
書	書	四	冊
門	部	五	架
		六	函
			號



司法省文庫

第 5235 號

XB100
G L
I L

三番	黑田 清綱
四番	津田 出
九番	西 周
十番	箕作 麟祥
十二番	河瀬 眞孝
十三番	伊集院兼寛
十五番	林 友幸

出席議員

議長代理
東久世通禧

元老院會議筆記明治十六年一月二十三日

○第三百七十六號議案 水底電信線路犯第一第二及第三讀會
禁者處分ノ儀

XB100
G L
I L

第三百七十一號 關於電信線路犯之議案
第三百七十二號 關於電信線路犯之議案
第三百七十三號 關於電信線路犯之議案
第三百七十四號 關於電信線路犯之議案
第三百七十五號 關於電信線路犯之議案
第三百七十六號 關於電信線路犯之議案
第三百七十七號 關於電信線路犯之議案
第三百七十八號 關於電信線路犯之議案
第三百七十九號 關於電信線路犯之議案
第三百八十號 關於電信線路犯之議案
第三百八十一號 關於電信線路犯之議案
第三百八十二號 關於電信線路犯之議案
第三百八十三號 關於電信線路犯之議案
第三百八十四號 關於電信線路犯之議案
第三百八十五號 關於電信線路犯之議案
第三百八十六號 關於電信線路犯之議案
第三百八十七號 關於電信線路犯之議案
第三百八十八號 關於電信線路犯之議案
第三百八十九號 關於電信線路犯之議案
第三百九十號 關於電信線路犯之議案

- 十八番 渡邊 清
- 二十番 榎村 正直
- 廿一番 神田 孝平
- 廿三番 柴原 和
- 廿四番 三浦 安
- 廿五番 海江田信義
- 廿六番 鍋島 直彬
- 三十番 長岡 護美
- 卅一番 大鳥 圭介
- 卅二番 福原 實
- 卅三番 伊丹 重賢

- 卅四番 渡邊 洪基
- 卅六番 津田 眞道
- 内閣委員 番外一番 參事院議官水本 成美
- 同 番外二番 參事院議官補山脇 玄

午前第十時五分開場

○議長 本日ハ第三百七十六號議案第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後

例ニ遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○番一水本 本家ハ簡單ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セスト雖モ聊カ
外成美 之ヲ畧述セン抑モ本家ハ工部省ノ上申ニ由リ内閣ニ於テ制定シタ
ルモノニシテ那ノ水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ヲ爲ス如キ
ハ從來禁止スル所ナレハ之ニ違フ者ハ新刑法實施以前ニ在テハ改
定律例雜犯律中違令違式ノ條ニ照シテ百日以下ノ懲役ニ處シタリ
シモ今日ニ至テハ何ニ據テ之ヲ罰セン乎刑法第二編第三章第六節
第六十四條ニ電信ノ妨害ヲ爲スモノニ係ル罰ヲ載スルモ彼ニ據
テ之ヲ罰スルコトハ恐ラク其當ヲ得サルナリ然ラハ那ノ電信條例
中ノ罰則ニ據ラン乎該罰則一モ之ニ適用スヘキ者ナシ其レ既ニ違
令違式ニ問フ能ハス

出席

十六番

楠本 正隆

又電信條例ニ據ル能ハス故ニ此犯禁者ハ之ヲ奇貨トシテ日ニ益多
キヲ加フルノ勢ヒナルヲ以テ止ヲ得ス今回本案ノ發令ヲ要スルニ
至リシナリ論者或ハ曰ン此ノ如キ單行布告ヲ發センヨリハ寧口之
ヲ電信條例ノ罰則中ニ補入スルニ若カスト其レ然リ然レトモ各位
ノ知ル如ク該條例ハ明治七年ノ制定ニシテ其罰則モ往々刑法ト抵
觸スル者アリ且其第七條以下ノ如キハ既ニ廢滅ニ屬セルヲ以テ主
務省ニ於テハ現ニ全部ノ改正ニ着手中ナレハ今此ニ補入スルハ太
タ好マサル所ナリ又此ニ電信線路トノミ掲載シタルハ夫ノ下ノ關
及青森ノ如キハ線路左右各二百間靜岡縣下遠江國濱名港ハ線路標
木ヨリ南北各十間東京府下南葛飾郡伊豫田村河岸ヨリ千葉縣下東

葛飾郡市川村河岸ノ間ハ線路左右各二十間以内等其河海ノ廣狹ト水勢ノ強弱トニ由リテ各其線路ヲ異ニスルヲ以テ本案ハ之ヲ囊括シ其廣キハ二百間狹キハ十間以内ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯シタル者ヲ罰スルノ意ナリ

出 席

卅五番

本田 親雄

又以上禁止ノ外桴筏繫留土砂堀取等ノ禁モ亦之アルヲ以テ此ニ等ノ字ヲ加ヘテ汎ク是等ヲ包含セシメタリ又二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストシタルハ明治十四年第七十二號布告第四條ニ「法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストアルニヨリテナリ本案ノ理由大略斯ノ如シ尙ホ疑義アラハ其質問ニ應シテ答辨スヘシ

○二十番 榎村 正直

本案ノ大體ヲ賛成ス而シテ其疑義アル所ヲ質サン本案ハ單ニ水底電信線路ニ於テ云々トアルモ從來ノ布告布達等ヲ視ルニ概シテ線路ノ近傍ニ於テ云々トアリ今此ニ近傍ノ字ヲ添ヘサルハ故アリテ然ル乎又案中「等」ノ字ヲ掲ケタルハ桴筏繫留土砂堀取ニ係ル從前ノ禁令ヲモ包含スルカ爲メナリトノ辨明ナレトモ從來ノ布告布達ハ其場所ニ應シテ各其禁ヲ異ニシ甲地ハ桴筏ノ繫留ヲ禁スルモ乙地ハ之ヲ禁セス又彼所ニハ投錨漁業採藻ノ三者ヲ禁スルモ此所ニハ投錨漁業ノ二者ノミヲ禁スルアリ然ルニ本案ハ此三者ヲ總括ス但シ採藻ノ如キ其藻ナキ所ニ於テ之ヲ採ルノ謂レナキヲ以テ其明文アルモ敢テ支障ナカルヘシト雖モ從來投錨ハ禁シテ漁業ハ禁セサル所ノ如キハ今仍ホ舊ニ依テ禁セサルノ意乎將タ今

回ハ從來ノ布告布達ニ關セス投錨漁業採藻等ハ皆悉ク禁スルノ意
乎且問フ從前是等ノ禁令ニ關スル布告布達ニハ近傍ヘ投錨云々等
ノ文字アリ然ラハ其場所ニ之カ桴標等ノ設アリヤ否ヤ

○番一水本
成美

二十番ノ質問ニ答ヘン其一水底電信線路トノミアリ
テ近傍ノ字ナキ所以ハ本案ヲ發スルモ此事ニ關スル從來ノ布告布
達ハ都テ廢止スルニアラス且本官ハ一々其布告布達ヲ記憶セサレ
トモ其數ハ凡ソ十七八件アリト思考ス而シテ明治六年第七十九
號布告ニハ「通航ノ船艦障礙不致様厚可注意且其近傍ヘ投錨ノ儀云
々」トアリ同十年工部省第十一號布達ニハ「線路浮標以內ニ於テ船艦
投錨云々」トアリ其他線路二百間以內ニ於テ云々トアリ又線路標木
ヨリ南北各十間以內ニ於テ云々トアル等各其文體ヲ異ニシ毎ニ近

傍ノ字アルニアラサルヲ以テ今回ハ是等ヲ總括スルノ意ニ由リテ
然ルナリ要スルニ前陳ノ如ク各地其線路ヲ異ニシ而シテ此十七八
件ナル布告布達ノ差ヲ一々本文中ニ編入スルハ難事ナリト雖モ實
際ニ於テハ其線路三十間毎ニ中央ニ赤色ヲ施シタル見易キ浮標ヲ
建テ、其線路ヲ指示シタレハ此ノ如ク掲載スルモ事實ニ支障ナシ
トス其二投錨漁業採藻等ト掲ケシハ其線路ニ條ル總體ノ事業ヲ括
リシノミニシテ其地方ニ依リ其禁ヲ異ニスルモノアレハ素ヨリ之
ヲ以テ從來禁セサル事業ヲモ併セテ禁止スルニアラサルナリ二十
番ノ質疑ニ答フルト此ノ如シ尙ホ遺漏アラハ其教ヲ俟テ復タ之ヲ
辨スヘシ

○十八番渡邊
清

番外一番ノ説明ニ由リ本案ノ大意ハ了解シタレトモ

文章上聊カ疑義アルヲ以テ之ヲ質サン本案ハ既往及ヒ將來ノ布告ト布達トニ係ル乎將タ其一ニ止ル乎本官ヲ以テ之ヲ視レハ既往ト將來トヲ總括シタルモノ、如シ果シテ然ルヤ否ヤ又「等」ノ字ヲ以テ土砂堀取其他ノ事ヲ含蓄シタリトノ説明ナルモ既ニ投錨漁業採藻ノ文字ヲ並掲スル以上ハ「等」ノ字ヲ以テ其他ヲ總括センヨリハ寧ロ詳細ニ其他ノ事ヲ列記スルカ否ヲサレハ一切之ヲ畧シテ「線路ニ於テ禁スル所ノ事件ヲ犯ス者ハ云々」ト爲スカ如キ方却テ優レリトス如何

○番一 水本
外 成美

本案ハ既往ノ布告布達ノミニ止マラス將來水底ニ電線ヲ架設スルニ當リテ設クル所ノ禁止ノ布告布達等ニ係ル法律ニシテ「等」ノ字ヲ掲ケタルモ畢竟其以テ將來禁止セサルヘカラサル箇

條アルヘキヲ慮リテナリ質疑者ハ綿密ヲ欲シテ盡ス能ハサランヨリハ寧ロ之ヲ略シテ「線路ニ於テ禁スル所ノ事件ヲ犯ス者ハ云々」ト爲サハ如何ト辨スレトモ線路云々禁スル所ノ事件ト云フ如キハ頗ル漠然トシテ是レ那ノ違式不應爲等ノ法律アリシ時代ニハ或ハ適スルモ既ニ法ニ明文ナキモノハ罰スルヲ得サル今日ニ在テハ恐ラク太簡タルヲ免カレサルナリ又假令現時禁止スル事業ノ外將來禁止スヘキ者アルニ至ルモ「等」ノ字アラハ桴後繫留ナリ土砂堀取ナリ其他如何ナル事業アルモ皆之ニ包含スヘキヲ以テ此「等」ノ字ハ緊要欠クヘカラサル文字ト云フヘキナリ

○十二番 河瀬
真孝

内閣委員ニ問フ過刻委員ノ説明中電信條例ハ不日改正セラルヘシ云々ノ語アリ果シテ然ラハ本案ハ其時ヲ俟テ之ニ補

入スル方可ナルカ如シ何トナレハ此ニ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者云々トアルハ從來此事ニ關スル布告布達ノ禁ヲ謂フトノ辨明ニ由レハ布告ヲ以テ禁シタルモノニ布告ヲ以テ裁制ヲ附スルハ素ヨリ不可ナシト雖モ唯布達ヲ以テ禁シタルモノニ布告ヲ以テ裁制ヲ附スルハ不妥ナリトスレハナリ況ヤ不日電信條例ノ改正アルニ於テハ其時ヲ俟テ之ヲ補入スルモ晚カラサルヲヤ然レトモ本案ハ其如何ニ拘ハラヌ急速發布セサルヘカラサルノ要用アル乎本官バ其答辨ニ由リテハ之ヲ廢棄ニ付セント欲スルナリ

○水本
成美 一番 十二番ノ質問ニ答ヘン電信條例ノ改正果シテ近シトセハ本案ハ之ヲ廢シ其時ニ際シテ補入セハ可ナラントノ説ハ頗ル理由アリ内閣ニ於テモ嘗テ其説ナキニアラサリシカトモ各位ノ知

ル如ク該條例ハ條數頗ル多キヲ以テ當ニ其改正ノ一朝一夕ニ爲シ得ヘカラサルノミナラス他ノ法律規則ノ如ク坐上ニ於テ論定シ得ヘキモノト異ナリ故ニ實地ノ調査モ充分ニ爲サ、ルヘカラサルヲ以テ何程急ヲ要スルモ一二ヶ月ニシテ能ク整頓シ得ヘキモノニアラス然リ而シテ至急本案ノ如クナラサルトキハ故ヲニ從來禁止スル所ノ令ニ違ヒ線路ヲ不通ニシ浮標ヲ流失セシムル等ノ事往々之アルヲ以テ實際ノ支障云フヘカラヌ因テ主務省ヨリハ電信條例ノ他日改正アルニ拘ハラヌ本案ノ急速發布アランコトヲ内閣ニ申請セリ是レ實ニ客歲十月十六日ナリ然レトモ當時内閣ハ事務特ニ繁劇ニシテ之ニ議及スルノ暇ナク昨今稍ク本院ニ下付セラル、ニ至リシナリ故ニ此間主務省ヨリハ其督促頻リニシテ今日ニ在テハ最

早一日モ猶豫シ得ヘカラサルナリ畢竟前陳ノ如ク犯禁者夥多ナル
 所以ハ水底電信ノ線路ハ從來漁業採藻等ヲ禁止スルニ由リ魚類ハ
 此ニ集マリ水藻ハ此ニ繁殖ス而シテ今日ニ於テ其禁ヲ犯スモ止タ
 看守者ノ制止スルノミニシテ之カ爲メ罰ヲ受クルノ恐レナキヲ以
 テナリ又布達ニテ禁シタルモノニ布告ヲ以テ裁制スルハ不妥ナリ
 トノ説アリ是レ亦一理ナキニアラサレトモ一昨十四年公布式改正
 以前ニ在テハ布告ト爲スヘキモノヲ布達トシ布達ト爲スヘキモノ
 ヲ布告ト爲シタル如キハ往々之アリ電信ノ事ニ於ケルモ亦然リ故
 ニ其布達ニシテ布告ニ改メサルヲ得サル者ノ如キハ漸ヲ以テ改正
 スルノ意ナリ幸ニ之ヲ領シテ本案ニ可決センコトヲ希望ス

○議長 發議盡キタルヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢ル

○外番一番 成水成美

既ニ陳述シタル如ク本案ハ客歲十月十六日主務省ノ

上申ニ成リ爾後同省ハ切リニ其發令ヲ渴望スルヲ以テ今日ニ在テ

ハ一日モ早ク決定布告センコトヲ欲スルニ依リ本院ノ例規ニ拘ハ

ラス引續第二讀會ヲ開カレンコトヲ請求ス

○議長 番外一番ノ請求ニ應シ引續第二讀會ヲ開クニ同意者ハ起立

スヘシ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ引續第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者ハ貳圓以上百圓

以下ノ罰金ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○二十六番 鍋島直彬 本案ニ就テハ番外一番ヨリ詳細ノ説明アリ本官ハ

其旨趣ニ於テハ毫モ異見ナシト雖モ字句ノ間聊カ不妥ヲ覺ユルヲ以テ試ニ修正説ヲ提出セン是レ他ニアラス案中「犯ス者ハ云々」トアレトモ此ノ如キハ法律文中多クハ「犯シタル者ハ云々」トアルヲ以テ普通ノ文例ニ倣ヒ體裁ヲ一ニセント欲スルナリ幸ニ賛成者ヲ得テ問題トナランコトヲ望ム

○十番 箕作麟祥 賛成

○議長 二十六番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン二十六番ノ修正説ニ同意者ハ起立

スヘシ

起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ二十六番ノ修正説ハ消滅ス

○三十六番 津田真道 本案ハ讀テ字ノ如ク明瞭且簡單ニシテ更ニ疑義ナ

シト思考シタルニ二十番十八番等ヨリ種々ノ疑問アリシモ亦詳明ナル答辨アリタルヲ以テ最早別ニ異論ナカルヘシト信ス依テ過刻番外一番ヨリハ引續第二讀會ノミヲ開クノ請求ナリシモ本官ハ本會完結ニ至ラハ更ニ引續第三讀會ヲ開カレンコトヲ建議ス

○議長 發議盡キタルヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス又三十六番ヨリ引續第三讀會ヲ

開クヘキノ建議アリ之ヲ採用シテ直ニ第三讀會ヲ開クヘシ

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第三讀會ヲ終ル決議ノ次第ハ例ニ遵ヒ上奏セン散會スヘシ

午前第十時五十五分開場

元老院會議筆記明治十六年二月二十一日

禁傍聽

○第三百七十八號議案清國及朝鮮國在留日本第一第二及第三讀
會

議長代理
東久世通禧

出席議官

三番

黑田 清綱

五番

細川潤次郎

八番

鷺尾 隆聚

九番

西 周

十番

箕作 麟祥

十一番

關口 隆吉

十二番	河瀬 眞孝
十三番	伊集院兼寛
十四番	岩下 方平
十六番	楠本 正隆
十八番	渡邊 清
十九番	大久保一翁
二十番	榎村 正直
廿一番	神田 孝平
廿三番	柴原 和
廿四番	三浦 安
廿五番	海江田信義

廿六番	鍋島 直彬
廿七番	河田 景與
廿九番	鍋島 幹
三十番	長岡 護美
卅一番	大鳥 圭介
卅二番	福原 實
卅四番	渡邊 洪基
卅六番	津田 眞道
卅八番	野村 素介

内閣委員 番外 参事院議官補 木下 周一

午前第十時十分開場

○議長 本日ハ第三百七十八號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後ニ例ニ遵ヒ發議セヨ

書記官 森山茂 朗讀

布告案

清國及朝鮮國在留日本人取締規則左ノ通制定ス

第一條 清國及朝鮮國駐劄ノ領事ハ在留ノ日本人該地方ノ安寧ヲ妨害セントスル者又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧ヲ妨害スルニ至ルヘキ者ト認定スル時ハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ但其情狀ニ由リテハ其期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得

第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若シ

期限内退去シ難キ正當ノ事由アリテ其旨ヲ申立ル時ハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得

第三條 保證金ヲ出シタル者再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スルトキハ領事ハ其保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 退去期限若クハ猶豫期限内ニ退去セサル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 此規則ノ處分ニ對シテハ上訴ヲ許サス

右奉 勅旨布告候事

○外番二番木周一 本案ノ趣旨ハ極メテ平易明白ナルニ因リ復タ特ニ説明スルヲ要セサル可キモ聊カ之ヲ約言スレハ本案ヲ發布スル所以

タル清國及ヒ朝鮮國ニ在留スル日本人ノ提轄ニ必要ナルカ爲メナ
リ各位若シ質疑ヲ爲ス有ラハ本員隨テ之ニ答辨セントス

○廿三番 柴原和

大體ニ於テハ本案ヲ賛成ス聞ク朝鮮國ニ在留スル日
本人ハ往往粗暴ノ行爲アリ對州人ノ如キ最モ甚シト故ニ本案ヲ制
定スルハ彼我ノ交際上ニ必要ナルカ爲メナリト思惟ス是レ之カ大
體ニ向テ賛成ノ意ヲ表スル所以ナリ然レトモ内閣委員ニ質問ス可
キ二點アリ其一ハ清國及ヒ朝鮮國ニ駐劄スル領事ニ與フルニ在留
日本人該地方ノ安寧ヲ妨害セントシ又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安
寧ヲ妨害スルニ至ル可キ者ト認定セシ時ハ彼ニ命スルニ一年以上
三年以下同國ニ在留スルコトヲ禁止スルノ權ト退去期限猶豫期限
禁止期限等ヲ犯シタル者ヲ處罰スルノ權トヲ以テスルニ關シテハ

之カ布告ヲ要スルハ言ヲ俟タサレトモ此布告ヲ發スルヤ朝鮮國ニ
於テハ頗ル之ヲ喜フ可キモ清國ニ於テハ或ハ憚然タラサル如キノ
感觸ヲ惹キ起ス無キヲ保セス何トナレハ從來朝鮮國ニ於テハ在留
日本人ノ暴行ヲ爲セル有ルモ清國ニ於テハ未タ嘗テ此等ノ事アラ
ス且此案ニ明掲スル如キ場合ニ際セハ我領事ノ之ヲ處分スルヲ俟
タス彼官司ニ於テ直チニ處分セントスルモ知ル可カラサレハナリ
然ルモ是レ英米等ノ各國ニ於テ日本ニ在留スル英米人ニシテ該地
方ノ安寧ヲ妨害セントシ又ハ妨害スルニ至ル可キ行爲アル者ヲ處
罰スル法律アルヲ以テ之ニ倣ヒ立案セシ乎其二ハ文章上ニ關スル
疑義ニシテ即チ第三條ニ保證金ヲ出シタル者再ヒ第一條ノ舉動ア
リト認定スルトキハ領事ハ其保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スル

コトヲ得ト言ヘル者はレナリ蓋シ第一條ニ據テ之ヲ考フルニ本條ノ旨趣タル領事ハ保證金ヲ沒收スルニ止メ在留ヲ禁止セサルモ可ナリト云フニ在ル乎將タ保證金ヲ沒收シ尙ホ加ルニ在留禁止ヲ以テスルト云フニ在ル乎

○番二番木下 廿三番ノ質疑ニ答シ第一問ハ英米等ノ各國ニ日本在留人取締規則等ノ設ケ有ルヤト云フニ存セリ即チ英國ノ一千八百六十五年ニ制定セシ日清在留英國人取締法令第十三章中ニ言ヘル有リ曰ク日本支那在留英國人民ノ内其地ノ騷擾ヲ醸成セントシ或ハ日本支那ニ在ル英國人民ノ所爲ヨリ其地ノ騷動ニ及ハントスル充分ノ證據アルトキハ日本支那ニ在ル英國裁判廳ハ其者ニ擔保ヲ出サシメ又ハ其者ヲ逐斥ス云々ト是レ翻譯文ナルカ故ニ字句ノ穩

安ナラサルモ其大意ハ了解セラレタル可シ蓋シ其擔保ト言ヘルハ本案ニ言フ保證金ナリ第二問ハ第三條ノ其保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スル云々ノ擬施ニ存セリ是レ領事ニ於テ保證金ヲ沒收スルニ止メテ可ナリトセハ之ヲ沒收スルニ止メ尙ホ在留ヲ禁止セント要セハ之ヲ禁止スルヲ得セシムルノ意ナリト解セハ可ナリ

○十番 本官ハ大體ニ於テ本案ヲ賛成スルノミナラス其各條ニ對シテモ疑點ノ存スル無ク且修正ヲ加フル意見モ有ラサルニ因リ本案ノ如ク決定センコトヲ希望ス只今廿三番ノ質疑ニ對シテハ番外二番ノ已ニ之ニ答辨セシニ因リ更ニ容喙ヲ要セサレトモ聊カ所見ヲ陳テ以テ本案ヲ賛成スルノ意旨ヲ表セン本案ハ特ニ我國ノミ之ヲ制定スルニ非スシテ歐米各國亦皆此ノ如キ取締規則ヲ設ケリ

番外二番ノ言ヘル如ク英國ニ於テハアインス、ラルドルアリ以テ日清在留英國人ヲ提轄ス各位ノ知ル如ク英吉利ハ我カ日本ト同ク洋中ニ孤立セル島國ナレトモ古昔ヨリ貿易ノ事業甚タ旺盛ニシテ今ヲ距ル二三百年前ヨリ和蘭、葡萄牙ニ亞キテ東洋ニ航來シ勢威ヲ逞クシテ東印度ヲ藩屬ト爲シ比耳西亞、亞加業坦、土耳其等ノ諸國ヲ壓服シ緬甸ヲ占取シ暹羅ヲ蹂躪シ支那ト干戈ヲ交ユル二三回ニシテ遂ニ其要地タル香港ヲ割取シ我日本帝國ニ對シテモ嘗テ馬關鹿兒島等ノ港灣ニ在テ砲擊ヲ我ニ加ヘタルコト有リキ聞ク近時埃及ニ於テアラビヤ、パシヤナル者叛亂ヲ企テ一時暴威ヲ振ヒシモ英國ノ敗ル所ト爲レリト但シ英國ノ宇内ニ跋扈スルモ其政府自ラ之ヲ命スルニ非スシテ皆其東印度商社ヲ組織セル商人等ノ利己主義ニ是

レ由ルナリ故ニ英國政府モ既ニ東洋ニ跋扈スルヲ策ノ得タル者ニ非スト爲シ要路ニ立テル政事家モ朝野ニ在ル學士論客モ亦皆之ヲ認メテ不可ト做サ、ルハ莫ク彼ノ頑儒彌兒ノ如キ英國政府ハ其商人等ノ東洋ニ暴威ヲ張ルヲ欲セサルカ爲メニ之ヲ提督セントシタルニ商人等ハ新聞紙等ヲ利用シテ貴冑政府ヲ批難シ商人等ノ勢力却テ政府ノ上ニ出タルヲ以テ政府モ之ヲ奈何トモスル能ハサルヲ説キ以テ深ク慨嘆シタルコト有リシ其レ此ノ如クナレハ英國政府ニ於テハ一千八百六十五年ニ當リ女帝陛下ノ命令ヲ以テ日清在留英國人取締法令ヲ設ケ過刻番外二番ノ言ヒシ如ク日本及ヒ支那ニ在留スル英人ニシテ其國地ノ公安ヲ妨害セントシ又ハ妨害スルニ至ル可キ行爲アルトキハ保證金ヲ供出セシメ若シ之ヲ供出セサレ

ハ捕縛シテ香港ニ押送シ便宜之ヲ本國ニ逐還スルヲ法トス然リ而シテ本案ニハ上訴ヲ許サスト爲セトモ英國ニ於テハ之ヲ許ス畢竟該法ト本案トハ多少ノ差異アルモ安寧ヲ妨害ス可シト認定スレハ領事之カ取締ヲ爲スノ要點ニ至テハ大同小異ナリトス且本案ハ專ラ英國ノ法令ニ根據シテ折衷參酌シ以テ起草セシ者ナル可シ故ニ清國及ヒ朝鮮國ニ於テモ決シテ之ヲ奇異視セサル可シ前ニ陳スル如ク東洋ニ跋扈セル英國スラ既ニ已ニ此ノ如シ佛國ノ如キモ稍ヤ之ニ類スルノ規則アリ況ヤ我國ニ於テハ東洋連衡ノ勢ヲ以テ清國ト情誼ヲ厚ウシ外國ノ侮辱ヲ防禦スルヲ緊要ト爲スノ今日ニ方タリ此法案ヲ發スルノ適當ナルヲヤ客歲我國人ノ朝鮮國ニ於テ暴行ヲ爲セシ如キコト無カラシメン爲メニハ今日ニ在テ片時モ本案ノ

發布ヲ忽諸ニス可カラサルナリ

○廿三番 柴原和

番外二番ハ英國ノ的例ヲ引證シテ本官ノ質問ニ答ヘ且十番ノ詳細ナル辨明ヲ得テ本官ノ望慮全ク消散ス故ヲ以テ喜テ本案ヲ賛成ス然ルニ第三條ニ關スル番外二番ノ答辨ヲ考フルニ本官初メ質問ヲ爲スノ際ニ言辭ノ盡サル所アリシニ由レルカ其答辨ノ領會シ得サル者アルヲ以テ此ニ再ヒ質問セン番外二番ハ保證金ヲ供出シタル者ニシテ再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スルトキハ領事ハ其保證金ヲ沒收シ又ハ在留ヲ禁止スルコトヲ得ヘシト云フカ如シ然レトモ本官等此文章ヲ讀下スルニ保證金ヲ沒收シ且在留ヲ禁止スルコトヲ得ルトモ解ス可ク又「保證金ヲ沒收シ」ト言ヘル「シ」ノ字ハ下文ノ「スルコトヲ得」マテニ牽連セル如ク見ル可ク又領

事ハ保證金ヲ還付シテ更ニ在留ヲ禁止スルコトヲ得ルトモ解ス可
シ知ラス果シテ保證金ヲ還付シテ在留ヲ禁止スルコトヲ得ト解ス
可キ乎將タ保證金ヲ沒收シ且在留ヲ禁止スルコトヲ得ト解ス可キ
乎

○番二番木下 周一

廿三番ノ反問ニ答テ簡略ニ解釋スレハ領事ハ保證金
ヲ沒收スルコトヲ得而シテ仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ得ト云フノ
意ニシテ保證金ヲ沒收スルモ可ナリ否ラサルモ亦可ナリ而シテ在
留ヲ禁止スルモ禁止セサルモ亦可ナリト云フノ義ナリ

○廿三番柴原 和

了解セリ本官モ或ハ然ル可シト思ヒシモ本案ノ如ク
ナレハ保證金ハ必ス沒收スル者ノ如ク解セサルヲ得ス故ニ領事ハ
在留ヲ禁止シ尙ホ其保證金ヲ沒收スルコトヲ得ト言フヲ妥當ナリ

トス第二讀會ニ至ラハ之カ修正說ヲ提出セン

○三十番長岡 護美

本官モ大體ニ於テハ本案ヲ賛成ス抑モ既ニ外國ト交
際ヲ開キタル以往ハ嚴密ニ我國人ヲ提轄シ以テ其風習ヲ匡正セサ
ル可カラス我國人ノ風習苟モ方正ナレハ外國人ノ風習モ亦隨テ方
正ナルニ至ル可シ故ニ此等ノ措施ハ尤モ忽諸ス可カラサルナリ然
ルニ本案ヲ觀ルニ其提轄ニ關スル事項ハ極メテ疎漏ニシテ只專ラ
取締權ヲ領事ニ付與スルヲ主ト爲セル者ノ如シ是レ取締權ノ領事
ノ手ニ在レハ能ク之カ取締法ヲ施スコトヲ得ヘシト云フニ由ル耶
又聞ク所ニ據レハ我國人タル婦女ノ清國等ニ在テ淫ヲ鬻ク者アリ
ト果シテ然ラハ我國體ヲ缺損スルノ甚シキ充分ニ嚴密ナル取締法
ヲ施サ、ル可カラス本案ヲ以テセハ此等モ警制スルニ足ルト云フ

乎敢テ内閣委員ニ質ス

○番二番木下 周一

三十番ノ第一問ハ領事ニ取締權ヲ與フレハ領事充分ニ取締法ヲ施シ得ヘキ乎ト云フニ存ス即チ領事ニ取締權ヲ與ヘサレハ安寧ヲ保全スル能ハサルヲ以テ本案ハ充分ニ之ニ其權ヲ與フル者トス第二問ハ本案ハ賣淫等ノ警制ヲモ含蓄スル乎ト云フニ存ス此等風俗上ニ涉ル事項ハ本案ニ含蓄セサルナリ

○廿四番三浦 安

内閣委員ニ質ス本案ノ清國ト朝鮮國トニ限リシハ何ノ故ソ蓋シ是レ此二國ハ歐米各國トハ條約交際共ニ殊異ナリト云フニ在ル歟然レトモ歐米各國ニ於テ其安寧ヲ妨害シタル如キハ姑ラク論セス其未タ安寧ヲ妨害スルニ至ラサルノ間ハ彼此同一ニ領事ノ職權ヲ以テ我國人ヲ提轄スルヲ適當ト爲スヘキニ似タリ請フ

明カニ答辨ヲ與ヘヨ

○番二番木下 周一

本案ノ清國ト朝鮮國トニ限リシハ領事ハ治外法權ヲ以テ交際ヲ爲スノ邦國ニ非サレハ外國ニ關涉スル罪事ニ對シ自國人民ト雖モ自由ニ之ヲ處斷スルコト能ハサルカ爲メニシテ即チ本案ニ歐米各國ノ名號ヲ列記セサル所以ナリ

○卅一番大鳥 圭介

本官モ大體ニ於テハ本案ヲ賛成ス過刻以來各位ノ陳述セル如ク朝鮮國ニ在留スル我人民往往ニ粗暴ノ行爲アリ其提督ノ周到セサルヨリシテ我國ノ體面ヲ辱シムル場合モ或ハ之レ無キニ非サルカ故ニ本案ヲ發スルハ必要ニシテ取締權ヲ領事ニ與フルハ最モ可ナリ但シ廿三番ノ質疑ニ係ル第三條保證金云々ノ一事ハ本官ハ之ヲ解シテ保證金ヲ沒收シ且在留ヲ禁止スルコトヲ得ルト

思惟セシニ番外二番ノ説明ニ依レハ保證金ヲ沒收スルコトヲ得而シテ在留ヲ禁止スルコトヲ得ルノ趣意ナリト云フ是ニ於テ本官疑ヒ有リ以爲ラク元來保證金ヲ供出スルハ再ヒ第一條ノ舉動ヲ爲サ、ル可シト保證スル爲メナレハ唯之ヲ沒收スルノミニ止メハ毫モ安寧ヲ妨害セントシタルヲ懲罰スルノ効用ナシ故ニ在留ヲ禁止スルヲ以テ眼目ト爲サ、ル可カラスト此條ノ趣意果シテ如何

○番外二番^{木下} 卅一番ハ第三條ニ關シ再ヒ質問ヲ發スレトモ此事ニ關シテハ過刻本員ノ廿三番ニ答辨シタル者ヲ除キ他ノ趣意ノ存セサルニ因リ復タ重複ノ答辨ヲ爲サ、ルナリ

○十八番^{渡邊} 本官モ本案ノ大體ニハ異論ナシト雖モ第三條ニ關シテハ卅一番ト疑ヲ同ウシ保證金ハ必ス沒收セサル可カラスト爲ス

然ルヲ若シ之ヲ沒收セス止タ在留ヲ禁止スルノミナラハ其効用ナシ故ニ本官ハ保證金ヲ沒收シ且在留ヲ禁止スルノ趣意ナリト解セリ若シ番外二番ノ言ヘル如クンハ廿三番ノ說ニ從ヒ文章ヲ改作スルニ非サレハ得テ解スルニ難キヲ以テ尙ホ第二讀會ニ論辨スル有ル可シ又第五條ニ此規則ノ處分ニ對シテハ上訴ヲ許サスト言ヘリ是レ特別ノ規則ナルカ故ニ上訴ヲ許サ、ル歟將タ之ヲ許スモ其身外國ニ在ルヲ以テ事實爲ス能ハサルカ故ニ許サ、ル歟之ヲ問フ

○番外二番^{木下} 十八番ノ第五條ニ關スル質問ニ答ヘン近來内國ニ於テモ裁判ノ執行ヲ遲延セシメント謀リテ不當ノ上訴若クハ上告ヲ爲ス者頗ル多シ而シテ本案ハ事本ト外國ニ關係シ且本人ヲシテ上訴セル爲メニ仍ホ其地ニ淹滯スルヲ得セシムルヤ在留禁止ノ効用

ヲ失ス加之是等ハ素ヨリ行政上ノ處分ナルヲ以テ上訴ヲ許サ、ラ
ントスルナリ

○廿四番^{三浦安} 過刻内閣委員ハ卅一番ノ第三條ニ關スル質問ニ對シ

前ニ廿三番ニ答辨シタル者ノ他ニ理由ナシトシテ其答辨ヲ爲サ、
ルニ因リ本官試ニ吾カ解釋シ得タル所ヲ陳述シ以テ其果シテ誤解
ナラサルヤ否ヤヲ内閣委員ニ質サン本官ハ領事嘗テ保證金ヲ供出
セシメタルニ再ヒ第一條ノ舉動アルトキハ其保證金ヲ沒收シ仍ホ
之ニ加ルニ在留ヲ禁止スルコトヲ得ルノ趣意ナリト解釋セリ知ラ
ス然ルヤ否ヤ

○^外番^二番^水周^一 第三條ノ意義ハ過刻本員ノ辨明シタル者ノ如クニシ
テ廿四番ノ解釋スル所トハ全ク異ナリ領事ハ其保證金ヲ沒收スル

コトヲ得而シテ仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ得ト云フノ趣意ナリ

○五番^{細川潤次郎} 本案ハ簡單平易ナル法案ナレハ敢テ辨論ヲ要セサル

可シ元來本案ハ外務省ノ上申ニ由テ成リタル者ニシテ其初メ外務
省ヨリ司法省ニ協議セルニ際シ原案第一條ノ性質ニ關シテ本官等
單箋ヲ貼シ以テ異議ヲ唱ヘタルコト有リシニ其議遂ニ行ハル、ニ
至リタレトモ仍ホ放任スル能ハサル者有ルヲ以テ本務ノ繁劇ナル
ニモ拘ラス本日力メテ參場シタリ然ルニ幸ニ其大體ニ對シテハ不
同意ヲ唱フル議官無キカ如シ故ニ本案ニ關セル外國ノ書類ハ本官
此ニ携帶シタルモ復タ之ヲ贅陳セサル可ク且本案ハ實際在留領事
ノ建議ニ據テ立草シタル者ナレハ其必要ナルハ言ヲ待タス然リ而
シテ本官ハ本院ノ會議ニ參スル毎トニ多クハ急速議決ノ建議ヲ爲

ス如クナレトモ本案モ第一讀會ヲ畢ラハ制規ニ拘ラスシテ第二及
 ヒ第三讀會ヲ連開セラレンコトヲ建議ス又第三條ニ關シ頻頻ニ各
 位ノ論辨セル有リ而シテ本官モ番外二番ト見解ヲ異ニシ既ニ保證
 金ヲ供出シタルニ拘ラス領事若シ再ヒ第一條ノ舉動アリト認定ス
 ルヤ嘗テ保證金ヲ供出シタルノ効用ナキヲ以テ其之ヲ沒收スルハ
 論ヲ俟タス而シテ「シ」ノ字ハ文勢ヲ連續スル爲メニ填用シタル者
 ニシテ其實ハ「ス」ノ義ニ外ナラス故ニ此條ハ止タ保證金ヲ沒收ス
 ルノミナラス仍ホ在留ヲ禁止スルノ趣意ナリト思考ス蓋シ何人ト
 雖モ此ノ如ク解釋スルノ外ハ別ニ解釋ノ下ス可キ無カラシ因テ聊
 カ之ヲ辨ス

○廿四番 三浦安 第三條ハ五番ノ說ノ如ク番外二番ノ辨明ハ恐クハ其

解釋ヲ異ニセル者ノ如シ故ニ第二讀會ニ至ラハ本官之カ修正說ヲ
 提出セント欲ス

退席 十四番 岩下 方平

○議長 發議既ニ盡キタルヲ以テ此ニ第一讀會ヲ畢ル五番ヨリ第二
 第三讀會ヲ連開ス可シトノ建議ヲ爲セルヲ以テ之カ決ヲ取シ五番
 ノ建議ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク

退席 廿七番 河田 景與
 同 三十番 長岡 護美

書記官 森山 朗讀

布告案

清國及朝鮮國在留日本人取締規則左ノ通制定ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ第一條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第一條 清國及朝鮮國駐劄ノ領事ハ在留ノ日本人該地方ノ安寧ヲ

妨害セントスル者又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧ヲ妨害スルニ

至ルヘキ者ト認定スル時ハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁

止スヘシ但其情狀ニ由リテハ其期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ

在留セシムルコトヲ得

○議長 本條ニ同意者ハ起立セヨ

起立者二十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若シ

期限内退去シ難キ正當ノ事由アリテ其旨ヲ申立ル時ハ領事ハ相

當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得

○議長 本條ニ同意者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第三條 保證金ヲ出シタル者再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スルト

キハ領事ハ其保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ得

○廿三番 柴原和 本條ハ修正ヲ加ヘサル可カラズ第一讀會ニ豫陳セシ

如ク「領事ハ其保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ得」ト言ハ、保證金ハ必ス沒收シ而シテ在留ハ禁止スルモ禁止セサルモ可ナルヲ如シ因テ之ヲ修正シテ領事ハ在留ヲ禁止シ仍ホ其保證金ヲ沒收スルコトヲ得ト爲ントス蓋シ其國地ノ安寧ヲ害セントシタル場合ノ如キ未タ以テ在留ヲ禁止スルニ足ラス保證金ヲ供出セシムルノミニシテ足ル有リ然リ而シテ再犯ト認定スル場合ニ在テハ其保證金ヲ沒收スルモ若シ在留ヲ禁止セサレハ處罰ノ効力ナキコト有ル可ク且保證金沒收ハ附加刑ナルニ之ヲ先ニシ而シテ本刑タル

在留禁止ヲ後ニスルハ穩妥ナラス元來安寧ヲ害セントスル者ヲシテ保證金ヲ供出セシムルニ在レハ再犯ノ舉動アリト認定スルヤ必ス其在留ヲ禁止シ而シテ其所爲重シト認定セハ仍ホ保證金ヲ沒收シ其所爲輕シト認定セハ之ヲ還付シテ可ナリ望ヲクハ幸ニ賛成者ヲ得テ此動議ノ問題ト爲ランコトヲ

○廿一番 神田孝平 賛成ス其理由ハ發議者ノ詳細ニ辨明セルニ因リ復タ贅陳セス

○議長 廿三番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○五番 細川潤次郎 現問題ハ未タ妥當ナラサルカ如シ何トナレハ本條ノ

「禁止スルコトヲ得」ト言ヘル「得」ノ字ハ第一條第二條等ニ在ル者ト意義ヲ異ニシ保證金ヲ供出シタルニ拘ラス再ヒ第一條ノ舉動アラ

ハ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ揭示スルニ在リ而シテ第一條第二條ニ在ル「得」ノ字ハ爲スモ爲サ、ルモ領事ノ權内ニ存スト云フノ意ナリ故ニ本條モ第一條ニ「在留スルコトヲ禁止スヘシト」言ヘル如ク「在留ヲ禁止スヘシ」ト爲セハ保證金沒收ニ加フルニ在留禁止ヲ以テセサル可カラサルノ旨意ハ明瞭ナレハ此ノ如クニシテ始メテ制裁ノ力アリト謂フ可シ因テ本官ハ本案及ヒ問題共ニ未タ妥當ナラスト爲スナリ

○廿四番^{三浦安} 本官ハ番外二番ノ説ノ如ク下付原案ヲ解釋スル能ハス何トナレハ在留ヲ禁止シテ保證金ヲ沒收セサレハ專要ナル取締法モ無効ニ歸ス可キニ由テナリ又問題ノ如ク保證金沒收ヲ後ニシ在留禁止ヲ先ニスルモ到底其二様ニ涉ルハ原案ト異ナル無ク而シ

テ五番ノ「禁止スルコトヲ得」ヲ「禁止スヘシ」ト修正セントスル豫陳ノ説ハ事旨頗ル明瞭ナルヲ以テ其修正説ノ出ルヲ俟チ本官ハ之ニ同意セントス併セテ述フ「仍ホ」ノ二字ハ不用ナリ蓋シ保證金ヲ供出セシムルニ若シ之ヲ供出セサレハ直チニ退去ヲ命スルヲ以テナリ因テ此二字ハ削除ニ付センコトヲ望ム

○卅一番^{大鳥圭介} 本官モ「仍ホ」ノ二字ハ之レ無キヲ可トス又現問題ハ保證金沒收ヲ下ニシ在留禁止ヲ上ニスルノ説ナルヲ以テ之ニ同意スル能ハス何トナレハ本條ノ冒頭ニ「保證金ヲ出シタル者云々」ト言ヘルノ明文アリテ保證金ノコトハ本條ノ主眼ナルニ因リ在留禁止ノコトヲ上ニ記スルハ文章ノ順序當ヲ得サレハナリ又「再ヒ」ノ二字ハ強テ不妥ナリト云フニ非サレトモ少シク語弊ナキニ非ス蓋

シ最初ニ安寧ヲ妨害セントシ又ハ安寧ヲ妨害スルニ至ル可キ行爲アリト爲スモ是レ素ヨリ未遂犯ニ係レハ假令其實再ヒ此ノ如キ舉動アルモ之ニ對シ「再ヒ」ト言フハ語弊ナキニ非ス因テ之ニ換ルニ「仍ホ」ノ二字ヲ以テセハ如何ン以上ニ陳述スル所ハ稍ヤ諸説ヲ折衷シタルニ似タレトモ本官ノ意見ハ此ノ如シ

○廿三番柴原和 卅一番ハ本條ノ冒頭ニ「保證金ヲ出シタル者云々」ト言ヘルヲ以テ原案ノ如ク保證金沒收ヲ前ニ置カサル可カラスト説ケリ是レ一理ナキニ非サレトモ本官ハ原案ノ意ヲ助ケテ問題ノ如ク修正シ唯在留禁止ヲ明確ナラシメタルニ過キス又五番ノ説ハ太タ酷ナリ本官ノ意ハ下付原案ノ如クシハ在留ヲ禁止スルモ否ラサルモ領事ノ隨意ニ委スル如クナルヲ以テ在留ハ必ス禁止スルコト

、爲シ而シテ仍ホ其保證金ヲ沒收スルコトヲ得ト爲シタルナリ

○十六番楠本正隆

本官ハ本案ノ大體ヲ可トシ別ニ質問ヲモ爲サ、リシカ本條ニ關シテハ各位紛紛議論ヲ吐出セリ因テ彼此ヲ參考スルニ問題説ヲ可ナリトス某議官ハ保證金ヲ沒收シ併セテ在留ヲ禁止ス可シト言フモ本案ハ素ト未遂犯罪ニ係リ領事ノ意見ヲ以テ斷行スル者ナレハ必ス多少ノ愍諒ス可キ有ラン又或ハ賣淫ニ因リ若クハ商業ニ由ルコトモ亦之レ有ル可ク而シテ此等ノ如キ領事若シ他日良心ニ復ス可シト認ムルヤ先ツ保證金ヲ供出セシメテ依然在留スルヲ認許シ爾後仍ホ第一條ノ舉動アリト認定スルトキ始メテ其在留ヲ禁止シ而シテ保證金ハ或ハ沒收シ或ハ還付スルコト、爲スヲ要シ強テ在留ヲ禁止シ尙且必ス保證金ヲ沒收セスシテ可ナラン故

ニ問題説ヲ得タリトス

○卅六番 津田 眞道

本官ハ下付原案ヲ可トス但シ現問題モ強テ不可ナリ

ト云ニハ非サレトモ彼此逕庭ナキニ因リ原案ニ左袒スルノミ且本官ハ第一讀會ニ當テ本案ヲ賛成スル理由ヲ述ヘサリシヲ以テ今聊カ之ヲ陳セン蓋シ朝鮮國ニ在留スル我人民ハ恰モ西洋人ノ始メテ我國ニ航來セシ時ノ如ク動モスレハ輒チ朝鮮人ヲ輕侮シテ粗暴ノ行爲ヲ加フル者アリ客歲朝鮮人ノ我在留人民ニ對シテ暴動ヲ爲セシモ其原ク所或ハ我ニ在リト云ハサルヲ得ス是レ即チ本案ノ發布ヲ要スル起因ニシテ本官ノ本案ニ左袒スル所以ナリ

○議長 發議既ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取シ廿三番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ廿三番ノ修正説ハ消滅ス

○卅四番 渡邊 洪基

過刻某議官ノ文字上ニ關スル修正説ヲ豫陳セル有リ

本官宜ク其提出スルヲ俟テ之ヲ賛成スヘキモ機會ヲ失スルヲ恐ル、ニ因リ敢テ代リテ之ヲ提出セン即チ本條ノ結尾ナル「禁止スルコトヲ得」ト言ヘルヲ禁止スヘシト修正スル是レナリ或ル議官ハ「仍ホ」ノ二字アレハ不穩ナリ「再ヒ」ノ二字アレハ不妥ナリト言フト雖モ此等ノ文字ハ俱ニ必要ノ文字ニ係ル蓋シ第一條ニ「一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ云々」トノ明文アリ假令未遂犯罪ナルモ一タヒ之ヲ犯スヲ以テ退去ヲ命スルニ代ヘテ保證金ヲ供出セシメタルナレハ本條ニ「再ヒ其舉動アリト認定スルトキ云々」ト言

ヘル「再ヒ」ノ二字ハ文章上條理上共ニ必要ニ屬ス又「仍ホ」ノ二字ノ
 必要ナル理由ハ「領事ハ其保證金ヲ沒收シト言ヘルハ是レ初ヨリ沒
 收スルニ非スシテ第一條ニ記載セル期限ヲ經過スルヤ固ヨリ還付
 ス可キモノヲ仍ホ領置スト云フノ意ナレハ到底還付ス可キ性質ノ
 保證金ナルモ既ニ之ヲ沒收シタル以上ハ流質即チ典質物品ノ滿沒
 ト一般ナリトス且本條ハ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スト云フ
 ニ在レハ是レ複罰ニ處スル者ノミ故ニ「仍ホ」ノ二字ヲ削去スルハ
 不可ナリ「再ヒ」仍ホ共ニ原案ニ從ヒテ之ヲ改メス而シテ唯其「禁止
 スルコトヲ得」ト言ヘルヲ禁止スヘシト修正スルニ止メント欲ス

○五番 細川潤次郎

卅四番ヲ賛成ス其旨趣ハ發議者明瞭ニ陳述セルニ因
 リ別ニ補説スルヲ要セス夫レ既ニ領事ニ此職權ヲ委付シタル以上

ハ修正説ノ如クセサル可カラス萬一領事ニシテ不當ノコトヲ爲ス
 モ責即チ其身ニ在レハ毫モ顧慮スルニ足ラサルナリ且夫レ保證金
 ハ在留禁止ヲ命セラレタル犯者ノ其情狀ニ隨ヒ若干ノ期間之ヲ供
 出シ以テ在留スルヲ得ル者ナレハ其期間ヲ經過セハ保證金ハ素ヨ
 リ還付セラル可ク而シテ若シ再ヒ第一條ノ舉動アリト認定セラル
 、ヤ保證金ノ効力ハ即チ消滅シテ全ク之ヲ沒收セラレ且其在留ハ
 必ス禁止セラレサル可カラス理由此ノ如シ故ニ卅四番ヲ賛成ス

○議長 卅四番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○廿四番 三浦安

賛成ス過刻「仍ホ」ノ二字ハ削除ス可シト論シタレト
 モ熟考スルニ是レ唯タ無用ノ文字タルニ止マリ強テ削除ニ付セサ
 ルモ可ナラン又「再ヒ」ノ二字ヲ不安ナリトスル論アリシモ是亦本

義ニ關セス其本義ハ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スヘシト言フ
ニ在レハ本官ハ其枝葉ヲ棄テ以テ問題說ヲ贊成スルナリ

○十番箕作 麟祥 本官モ贊成ス原案ニ從ヘハ發議者モ言フ如ク保證金ハ

沒收ス可キモ在留ヲ禁止スルト否トハ一ニ領事ノ意思ニ委スル者
ニ似シ果シテ然ラハ犯者ハ保證金ヲ沒收セラレ、ハ困難ナレトモ
在留ヲ禁止セラレサル點ニ至テハ毫モ痛痒ヲ感スルコト無ク猶ホ
常人ノコトク在留スルヲ得ルトノ思想ヲ起シテ彷徨スル者アラン
ニハ此取締法モ無効ニ屬センノミ問題說ノ如ク保證金ヲ供出セシ
メ其禁止期間ヲ經過セハ之ヲ還付ス可キモ若シ再ヒ第一條ノ舉動
アリト認定スルトキハ審ニ保證金ヲ沒收スルノミナラス尙ホ在留
ヲ禁止スルニ非サレハ則チ其有効ヲ望ミ難カル可シ又「仍ホ」再ヒ

ノ文字ハ原案ノ如クシテ可ナリ併セテ卅四番ニ告ク此事タル瑣々
ナルヲ以テ敢テ言フヲ要セサレトモ「トキ」ハ第一條ニハ「時」ニ作レ
リ望ムラクハ彼此一ニ歸セシメンコトヲ

○卅四番渡邊 洪基 然リ必ス一ニ出テシメサル可カラス而シテ第一條ハ

既ニ決定シタルヲ以テ之ニ倣ヒ「トキ」ヲ時ト改ム可キナリ

○卅六番津田 眞道 本官ハ原案ヲ佳ナリトス本案第一條ニハ「在留セシム

ルコトヲ得」第二條ニハ「與フルコトヲ得」ト言ヘルニ因リ此第三條
ノ如キモ亦禁止スルコトヲ得「ト爲セルヲ可トス原來領事ニ此權
ヲ與フル以上ハ領事ハ在留日本人ヲ提督ス可キ職任ヲ有スルヲ以
テ假令ヒ禁止スルコトヲ得ト爲セルモ誰カ復タ禁止セサルコトヲ
モ得ル者ト解スル有シ其禁止ヲ命スルヤ必セリ故ニ「スヘシ」ト修

正スルヲ要セス且「トキ」ハ第一條ニ「時」ト言ヘルニ因リ然カク改ムルモ不可ナル無シト雖モ亦故ラニ修正スルヲ要セス本官敢テ熱中シテ現問題ヲ駁撃スルニハ非サレトモ必スシモ修正ヲ加フルヲ要セスト思考スルカ故ニ聊カ之ヲ辨スル爾ミ

○十八番 渡邊清 本官モ原案ヲ可トス然レトモ卅六番ノ如ク各條ノ文例ノ如何ニ因テ然スルニ非ス第一條ハ「在留スルコトヲ禁止スヘシ」ト明言シテ領事ニ特權ヲ與ヘ而シテ但書ニ於テ「在留セシムルコトヲ得」ト言ヘリ第二條モ「猶豫期限ヲ與フルコトヲ得」ト爲シテ活路ヲ與ヘ本條モ亦「禁止スルコトヲ得」ト言ヒテ聊カ餘裕ヲ與ヘタリ原來本條ノ旨意タル領事ハ必ス其保證金ヲ沒收シ而シテ仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ得ト云フニ在リ或ル議官ハ在留ヲ禁止セサレ

ハ取締法ノ効力ヲ失スト論スレトモ「コトヲ得」ト言ヘルノ明文アレハ領事ノ之ヲ裁判スルニ當リ却テ妙味ノ存スルヲ見ル然ルニ問題說ノ如ク保證金ヲ沒收シ併セテ在留ヲ禁止スルコト、爲セハ再ヒ第一條ノ舉動アル者ハ其情狀ノ如何ヲ問ハスシテ必ス在留ヲ禁止セサル可カラス然レトモ商業等ニ關シ已ムヲ得サル事故ノ爲メニ在留ヲ請求スル者モ亦之レ有ル可シ十番ハ保證金ヲ沒收スルニ止メテ在留ヲ禁止セサルトキハ仍ホ其國地ニ彷徨スル有ル可シト言フモ是等ハ固ヨリ禁遏シテ可ナルノミ之ヲ要スルニ萬中一二ノ已ムヲ得サル事故アル可キニ因リ原案ノ如ク可決センコトヲ望ム

○廿三番 柴原和 現問題ハ苛酷ニ失セリ此ノ如クンハ寧ロ原案ヲ可ナリトス蓋シ本案ハ第一條ニ明記スル如ク在留國地ノ安寧ヲ害セン

トスル未遂犯罪ヲ提警スルヲ主眼ト爲シ其罪犯ノ認定ハ領事ノ意思ニ委スル者ニシテ凡ソ犯罪ハ素ヨリ法ニ處ス可キモ是レ未遂犯罪ナルヲ以テ情狀ノ憫諒ス可キ者モ必スヤ之レ有ラン而シテ領事其保證金ヲ沒收スルハ可ナレトモ在留ヲ禁止スルハ苛酷ナリト思惟スルトキハ之ヲ如何ス可キ乎或ル議官ハ番外二番ノ辨明ハ信用スルニ足ラスト論シタレトモ内閣ニ於テハ却テ此ノ如キヲ可ト爲セシヤモ知ル可カラス現問題ノ如キ苛酷ナル取締法ヲ布クトキハ清國朝鮮國ヲシテ日本國ハ酷法ヲ設ケタリト嗤笑セシムル無キヲ保タス過刻本官ノ提出セシ修正說ハ原案及ヒ問題說ノ中間ニ立ツ者ナリシモ其既ニ消滅シタル以上ハ已ムヲ得スシテ寧ロ原案ニ決センコトヲ望ム

退席

廿五番

海江田信義

○卅四番

渡邊 洪基

反對論者ハ原案ヲ主持シ爲メニ種種ノ駁撃ヲ試ミルモ其見解ノ多岐ニ涉ルヲ以テ詳ニ領會スルニ難シト雖モ聊カ之ヲ反駁セン或ル議官ハ「保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ得」ト言ヘハ領事ハ必ス保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スルナル可シ故ニ原案ノ如クニテ可ナリト云フト雖モ「得」ト言ヘハ其禁止スルモ禁止セサルモ領事ノ意思ニ存スルヲ以テ大ニ本旨ヲ失スルヲ免レス又或ル議官ハ幾分カ餘裕ヲ與フ可ク苛酷ニ過ク可カラス保證金ハ沒收スルモ在留ハ禁止セサルモ可ナリト云フト雖モ是レ法律ノ精神ニ反スル者トス抑モ第一條ニ「一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ」ト言ヘルハ乃チ法律ノ主眼ニシテ保證金ヲ云々

スト言ヘル如キハ其精神ノ存スル所ニ非サルナリ蓋シ内地ト異ニシテ種種ノ事情アルニ因リ其情狀ニ應シテ或ハ保證金ヲ供出セシメ仍ホ在留ヲ認許スルコト有ル可シト雖モ再ヒ第一條ノ舉動アルニ於テハ斷然其在留ヲ禁止ス可シ果シテ然ルヤ前ニ供出シタル保證金ハ猶ホ流質ノコトクナルヲ以テ其之ヲ沒收スルハ當然ノ事ニ屬ス又或ル議官ハ現問題ヲ苛酷ニ過ルト云ヒ且清國朝鮮國ノ嗤笑ヲ招ク可シト云フト雖モ是レ如何ナル見解ニ由テ然ル乎本案ハ單ニ日本人ノ爲メニ設ルニ非ス日本人ニシテ清國朝鮮國ノ安寧ヲ妨害セントスル者ヲ豫防スル者ナレハ彼ニ在テハ欣喜スルモ決シテ嗤笑スル有ル可カラズ畢竟本案ハ安寧ヲ害スル者ノ豫防規則ナレハ此ノ如キハ決シテ苛酷ナリト謂フ可カラズ本官等自ラ好ミテ原案

ヲ修正セント欲スルニ非サレトモ奈何セン原案ノ如クシテハ意義明瞭ナラサルニ因リ已ムヲ得ス之ヲ修正シ以テ其精神ヲ貫徹セシメント要スルノミ又或ル議官ハ「得」ノ字ハ第一條第二條ニモ之レ有リテ文例ノ一ナルヲ尙フ故ヲ以テ下付原案ニ從フヲ可ナリトスト言フト雖モ本條ハ前二條ト全ク其旨趣ヲ異ニシ本條ニ於テハ「得」ノ字ヲ用フ可キニ非ス是レ本官ノ本條ヲ修正セント欲スル所以ナリ

退席

十三番

伊集院兼寛

○五番 細川潤次郎

卅四番ハ現問題ノ反對者ヲ充分ニ辨破シタレトモ是レ頗ル至重ノ事件ナルヲ以テ本官更ニ一言ヲ補陳セサルヲ得ス夫レ本案ハ其關係甚タ重大ナルカ故ニ本官ハ本務ノ繁劇ナルニモ拘ラスシテ本院ニ參會セリ元來本案ヲ發スルハ即チ一ノ豫防法ヲ布

ク者ニシテ其要ハ兩國ノ交際ヲ全ウシ安寧ヲ保タンカ爲メニ外ナ
 ラス今若シ見ニ戰亂ヲ致シ或ハ安寧ヲ害スル者アレハ固ヨリ死刑
 ニ處ス可キモ未タ其場合ニ至ラサルニ先ツ懲罰セントスルナレハ
 其嚴酷ナルハ始ヨリ知ル可キナリ故ニ在留ヲ禁止スル特權ヲ領事
 ニ付シ以テ毫モ寬慢ニ流レ假借ニ苟モセサラシメンコトヲ望ム彼
 ノ在留國地ニ彷徨スル者ノ如キハ猶ホ可ナレトモ若シ其非違ノ舉
 動ヨリ兩國ノ間ニ葛藤ヲ生シ戰端ヲ啓ク等ノ大事ニ至レハ其極或
 ハ兩國ノ存亡ニ關スルモ亦知ル可カラス故ニ之ヲ豫防スルハ尋常
 ノ事件ト異ニシテ寧ロ干涉ニ過ルモ嚴密ニ提督ヲ施サ、ル可カラ
 ス決シテ普通ノ法律規則ヲ制定スルト同日ノ論ニ非ス即チ在留ヲ
 禁止スル如キ特權ヲ領事ニ與フルモ畢竟之カ爲メナル可シ蓋シ假

令ヒ未遂犯罪ニ係ルモ或ハ過激ノ言ヲ發シ或ハ粗暴ノ舉動ヲ爲シ
 タル爲メニ遂ニ兩國ノ交際上ニ紛議ヲ生スル無キヲ保セス故ニ其
 嚴酷ナラサル可カラサルハ言ヲ須タス況ンヤ第三條ニ言フ所ノ如
 キハ其再犯ニ係ル者ナルヲヤ若シ夫レ尋常ノ場合ナランニハ「禁止
 スルコトヲ得」ト爲スモ不可ナラサレトモ本條ハ尋常ノ場合ニ非サ
 ルヲ以テ素ヨリ第一條第二條ノ場合ト異ナリ斷然ニ「禁止スヘシ」ト
 修正セサル可カラス現問題ハ此ノ如ク重要ナルヲ以テ各位ニ於テ
 モ熟考ヲ下シ以テ本案ノ精神ヲ貫徹セシムルニ期センコトヲ望
 ム

○廿三番 柴原和

本官ハ保證金ハ必ス沒收スル者ト領會ス抑モ保證金
 ヲ供出スルハ再ヒ第一條ニ言ヘル如キ舉動ナキヲ保證スルニ在レ

ハ若シ再ヒ其舉動アリト認定スルヤ之ヲ沒收スルハ固トニ當レリ
 然リ而シテ一年以上三年以下在留ヲ禁止スル定則ナルモ情狀ノ愍
 諒ス可キ有レハ宜ク餘裕ヲ與フヘキ者ナルニ問題說ハ其事犯ノ輕
 重ニ關セスシテ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止セサルヲ得スト爲
 ス豈苛酷ト謂ハサル可ケンヤ且夫レ領事ハ此ノ如キ大權ヲ有スル
 カ故ニ時トシテハ在留人ノ容貌ノ如何ヲ見テ或ハ毫モ惡心ナキ者
 モ第一條ノ舉動アリト認定スル如キ擅横ノ所爲アルモ知ル可カラ
 ス又賣淫ハ安寧ヲ害ストシテ在留ヲ禁止スル等ノコト有ランニハ
 其苛酷モ亦甚シ又五番ハ自ラ本務ノ繁劇ナルニモ拘ラス本案ノ重
 要ナルカ爲メニ本日特ニ參場セリト云ヒ以テカメテ現問題ヲ援助
 スルモ保證金ヲ沒收スルニ止メス再ヒ第一條ノ舉動アリト認定シ

タリトテ一概ニ在留ヲモ禁止セント要スルハ其苛酷ナル發議者ト
 同シ既ニ第一條ニ於テモ情狀ノ愍諒ス可キ者ハ保證金ヲ供出セシ
 メテ依然在留セシムルコト有リ本案ノ精神ハ決シテ問題說ノ如キ
 苛酷ナル者ニ非ス故ニ寧ロ原案ヲ優レリトス

○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ン卅四番ノ修正ニ同意者ハ
 起立セヨ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ卅四番ノ修正說ハ消滅ス

退席

五番

細川潤次郎

○廿六番 鍋高直彬 本案ハ領事ニ處分權ヲ付與スル者ナレハ其事頗ル輕
 易ナラサルモ是レ外國ノ安寧ヲ害セントスル日本人ノ取締法ニシ

テ彼此ノ交際上ニ影響ヲ及ホス者ナレハ萬モ已ムヲ得サルニ成レ
ルナリ過刻以來第三條ノ修正說ニ對シ或ハ苛酷ニ過クルト云ヒ或
ハ否ラスト云フモ若シ其苛酷ナルコトヲ云ハ、第一條ノ精神ヲ最
モ甚シトス蓋シ第三條ニ關シテ修正說ノ出タル既ニ二次ナルモ本
官ノ之ニ同意セサリシハ本官別ニ一ノ修正說ヲ蓄フルヲ以テナリ
今ヤ提出ス可キ時機ニ際セルヲ以テ之ヲ言ハシニ本官ハ第一條ノ
舉動アリテ在留ヲ禁止スヘキトキハ領事ハ其保證金ヲ沒收スルコ
トヲ得ト修正セント欲スルナリ此修正タル其字句ノ或ハ妥當ナラ
サルヤヲ知ラサレトモ此ノ如クセハ本末共ニ明瞭ナリトス因テ贊
成者ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ望ム

○廿一番 神田 孝平

本官ハ前ニ廿三番ノ提出シタル「領事ハ在留ヲ禁止シ

仍ホ保證金ヲ沒收スルコトヲ得」ト言ヘル修正說ヲ贊成セシモ其說
ハ不幸ニシテ消滅セリ只今廿六番ノ提出セシ修正說ハ文字ハ異ナ
ルモ其精神ハ廿三番ノ修正說ト同クシテ本官ノ素論ニ合スルニ因
リ之ヲ贊成シ隨テ聊カ反對論者ニ對シテ一駁ヲ試ミントス或ル議
官ハ原案ノ如ク「仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ得」ト言ヘハ在留ヲ禁
止スルモ否ラサルモ領事ノ意思ニ委スルカ故ニ妨ケ莫シト云フト
雖モ是レ決シテ然ラス第一條ニ禁止スヘシト言ヒ而シテ本條ニ禁
止スルコトヲ得ト言フハ文章事實兩ツナカラ宜ヲ得タル者ニ非ス
既ニ第一條ニ於テスラ禁止スヘシト言ヘル以上ハ再犯ノ場合ニ在
テハ其必ス禁止セサル可カラサルハ論ヲ俟タヌ又或ル議官ハ再ヒ
第一條ノ舉動アリト認定スルトキハ必ス保證金ヲ沒收ス可シト云

フト雖モ原來此取締法ノ施行ハ全ク領事ニ委任スル者ナルカ故ニ
領事ニ於テ情狀ヲ酌量シテ之カ活路ヲ與ヘサル可カラス然ラサレ
ハ權衡宜キヲ失スルコト有ル可シ故ニ廿六番ノ提出セシ修正說ニ
可決センコトヲ望ム

○議長 廿六番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス且時既ニ正
午ヲ過キタリ午餐ノ爲メニ暫ク中止セン散會セヨ

午後零時三十分閉場

午後第一時開場

- 退席 十六番 楠本 正隆
- 同 十八番 渡邊 清

- 同 廿四番 三浦 安

- 同 廿九番 鍋島 幹

○議長 午前ノ續會ヲ開ク廿六番ノ修正說方サニ問題中ニ在ルヲ以
テ意見アラハ之ニ對シ發議セヨ

○二十番 榎村 正直 問題ハ稍ヤ穩安ナレトモ再ヒ第一條ノ舉動アリテ在

留ヲ禁止スヘキトキハ云々ト言ハ、再ヒ第一條ノ舉動アリテ當ニ
在留ヲ禁止スヘキトキハ云々ト解シ得ヘキノ嫌ヒ有ルニ因リ遺憾
ナカラ賛成スル能ハス然レトモ發議者ハ字句ニ於テハ或ハ妥當ヲ
缺クヲ知ラスト云ヘルヲ以テ之ヲ推セハ其精神クニ貫徹スルヲ得
ハ字句ヲ改ルモ敢テ異論ナカル可シ故ニ試ミニ本官ノ意見ヲ陳ン
ニ現問題タル「禁止スヘキトキハ」ヲ改メテ「禁止スルトキハ」ト爲シ

下文ハ現問題ノ如ク「保證金ヲ沒收スルコトヲ得」ト爲シ其沒收スルト否トハ領事ノ意思ニ委スルヲ可トス蓋シ本條ニ關シテハ午前ニ於テ數回修正案ノ出ル有リテ廿三番ハ在留禁止ヲ前ニシ保證金沒收ヲ後ニセント欲シタレトモ本條ハ冒頭ニ「保證金ヲ出シタル者云々」トノ明文アリテ保證金ノ事ヲ主ト爲セリ且在留禁止ノ事ハ第一條ニ掲ケタルニ因リ重テ此ニ之ヲ掲クルハ穩安ナラサルヲ以テ本官ハ之ニ賛成セサリシ然リ而シテ只今廿六番ノ提出セル修正案ハ稍ヤ穩安ナレトモ禁止スヘキトキハト言ヘハ其事半途ニ屬スルヲ以テ改メテ禁止スルトキハト爲シテ可ナラン幸ニ發議者ニ於テ此ノ如ク其文案ヲ改メタランニハ本官之ニ同意セントス

○廿三番

柴原和

本官ハ午前ニ於テ修正說ヲ提出シタレトモ文字ノ聊

カ妥當ナラサル爲メニ消滅ニ歸シタルハ二十番ノ言ヘル如シ而シテ第三條ハ保證金ノ事ヲ主ト爲セルニ因リ現問題ノ如クスルヲ可トス且現問題ハ第二條ニ對シ文體其宜ヲ得タリ然レトモ奈何セン禁止スヘキトキハト言ヘハ二十番ノ言フ如ク明瞭ヲ缺クヲ以テ本官モ同意ヲ表スル能ハス故ニ若シ現問題ノ消滅シ而シテ二十番ヨリ「禁止スルトキハ」ト爲ス修正說ヲ提出スル有ランニハ輒チ之ニ賛成セントス然レトモ發議者ニ於テ幸ニ二十番ノ說ヲ容レ其修正案ヲ改メタランニハ本官喜ンテ賛成ス可キナリ

○廿六番

鍋島直彬

本官修正說ヲ提出シタリシニ幸ニ問題ト爲リタリ因テ更ニ其言辭ノ足ラサル所ヲ補ヒ併セテ二十番廿三番ニ對シ本官ノ意見ヲ陳述セン本官ノ本案ノ大體ニ對シテ見解ヲ下セシ所ヲ言

ハシニ第一條ハ「一年以上三年以上在留スルコトヲ禁止スヘシ」ト
 言ヘルヲ主眼ト爲シ其但以下ハ變則ニ係ル第二條ハ在留禁止ヲ
 命セシ者ノ退去及ヒ猶豫期限ニ關シテ領事ニ取締權ヲ與フルヲ精
 神ト爲シ第三條ハ保證金ヲ供出シタルモ再ヒ安寧ヲ妨害セントシ
 又ハ安寧ヲ妨害スルニ至ル可キ虞懼アルトキ之カ處分ヲ下スヲ骨
 髓ト爲ス而シテ二十番ハ「禁止スヘキトキハ」ト言ヘハ其事確定セ
 サルニ似テ穩妥ナラズト云フト雖モ本官ノ「禁止スヘキ」ト爲シタ
 ルハ第一條ノ「禁止スヘシ」ト言ヘル場合ト同シク命令詞ナル「ヘシ」
 ヲ「ヘキ」ト爲シ文章ヲ接續シタルマテニシテ決シテ當サニ禁止ス
 ヘキ場合ト云フ如キノ意味ヲ含蓄セシムルニ非ス然レトモ此等ノ
 文字ニ關シ強テ喋辨スルニ非サルヲ以テ若シ名文案ノ在ル有ラハ

素ヨリ之ニ從フノ意ナリ且瑣瑣タル字句ニ拘泥シテ遂ニ精神ヲ貫
 徹セサルニ至ルハ遺憾ナルヲ以テ二十番并ニ廿三番ノ說ニ從ヒ「禁
 止スヘキ」トキハ「ト言ヘルヲ改メ」禁止スルトキハ「ト爲ス各位幸ニ
 之ヲ領セヨ

○番二番木下
 外二番周一

第三條ニ關シテハ種種ノ論議アリタレトモ廿六番ノ
 修正說ハ最も穩妥ナラスト思惟スルヲ以テ一言之ヲ駁セサルヲ得
 ス廿六番ハ「第一條ノ舉動アリテ在留ヲ禁止スルトキハ云々」ト修
 正セントスト云フト雖モ第一條ニハ在留ヲ禁止スルトキハ情狀ニ應ジ
 テ保證金ヲ供出セシムルトノ二様アリテ其保證金ヲ供出セシムル
 場合ニ當テハ之ヲ如何スル歟現問題ノ如キ再犯ニハ保證金ヲ供出
 セシメサルノ意ナル乎將タ止タ在留ヲ禁止スルノミニシテ絶テ保

證金ヲ供出セシムル無キノ意ナル乎甚タ不明瞭タルヲ免レス因テ
聊カ之ヲ辨ス

○十番實作 購祥 廿六番ノ修正說ハ先ニハ「在留ヲ禁止スヘキトキハ云

々」ト爲シタルヲ二十番等ノ忠告ニ因テ「在留ヲ禁止スルトキハ云
々」ト改メタリ其改案ノ修正ハ未タ問題ト爲ルヤ否ヤヲ知ラサレト
モ是レ如何スルモ穩安ナラス夫レ「在留ヲ禁止スルトキハ云々」ト
言フハ「在留ヲ禁止スヘキトキハ云々」ト言ヘルヨリハ稍ヤ明晰ナ
レトモ精神ニ於テハ異ナルコト無シ要スルニ本條ハ認定ノ文字其
眼目ト爲レリ何トナレバ保證金ヲ供出シタル者再ヒ第一條ノ舉動
アルコトヲ認定スルヲ領事ノ職權ト爲スヲ以テナリ若シ領事ノ認
定ノ當否ヲ里慮スルナラハ第一條ノ認定云々ノコトモ亦均ク里慮

セサルヲ得ス既ニ第一條ニ於テ領事ニ認定權ヲ與ヘタル以上ハ第
三條ニ於テハ固ヨリ之ヲ與ヘサル可カラズ此修正案ノ如クスレハ
第一條ハ領事ニ於テ安寧ヲ妨害セントシ又ハ其行爲ニ因リ安寧ヲ
妨害スルニ至ル可キ者ト認定スルトキハ云々スルノ職權ヲ有スル
コトハ明晰ナルモ第三條ニ認定ノコトヲ掲ケサル以上ハ公然ニ第
一條ノ舉動アルニ非サレハ領事ニ於テ之ヲ如何トモスル能ハサル
可シ加之其保證金ヲ沒收スルコトヲ得ト言ヘハ甚タ障礙アリ本官
ハ午前ニ於テ「在留ヲ禁止スヘキ」ト爲サントスル卅四番ノ修正說
ヲ可トシテ之ニ同意シタリシモ其說ハ苛酷ニ失セリトノ論出テ消
滅ニ歸セリ然ルニ此修正案ノ如キハ之ニ反シテ緩慢ニ失スト謂ハ
サルヲ得ス本條ノ原文ニ依レハ領事ニ於テ再ヒ第一條ノ舉動アリ

ト認定スルトキハ保證金ハ直チニ沒收ス可キ者ナルニ本修正案ニ
 ハ「沒收スルコトヲ得」ト言フヲ以テ沒收セサルモ不可ナラサルカ
 如シ蓋シ前ニハ「第一條ノ舉動アリテ在留ヲ禁止スルトキハ」ト言
 フ如キ有勢ノ文ヲ掲ケ而シテ後ニハ「領事ハ其保證金ヲ沒收スルコ
 トヲ得」ト言フ如キ無勢ノ文ヲ置キテ以テ前段ニ接承スルハ所謂龍
 頭蛇尾ノ文辭ニシテ前後撞觸ト謂フモ誣妄ナラサル可シ抑モ保證
 金ナル者ハ再犯ノ舉動アリト認定セラル、トキハ其之ヲ沒收セラ
 ル可キハ當然ノ事ナルニ還付スル如キコト有ルハ保證金領置ノ旨
 趣ニ背反スル者ト謂フ可シ又若シ第一條ノ舉動ヲシテ在留禁止ヲ
 命セラル可キコトナランニハ「第一條ノ舉動アリテ在留禁止云々」
 ト言フハ重複ノ嫌ヒ無キ能ハス本官ハ午前ノ「在留ヲ禁止スヘシ」

ト言ヘル修正說ノ消滅ニ歸シタル以上ハ寧口原案ヲ可ナリトス

○議長 廿六番ハ其修正案中ノ「禁止スヘキトキ」ト言ヘルヲ「禁止ス
 ルトキ」ト改メタリト言フ二十番ハ之ニ賛成スル歟

○二十番 榎村 正直 「禁止スルトキ」ト改メタル以上ハ喜ンテ之ヲ賛成ス

○議長 廿六番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ更ニ問題ト爲ス

○廿三番 柴原 和 本官モ賛成ス只今十番ハ之ヲ駁シテ認定ノ文字ナキ

トキハ穩妥ナラス原案ヨリモ反テ緩慢ニ陥ルト言ヘリ本官前ニハ
 認定ノ文字ノ削除如何ニマテ考到セサリシモ今回之ヲ削除セシハ
 頗ル妙ナリトス何トナレハ第一條ニハ舉動ノ文字ナク且舉動アリ
 ト認定スル云ヤト言フノミニシテハ語ヲ爲サ、レハナリ抑モ「舉動
 アリテ」ノ文字ハ其安寧ヲ妨害セントシ又ハ其行爲ニ因リ安寧ヲ妨

害スルニ至ル可キ者ナルコトハ少シク文字ヲ解スル人ナランニハ
 決シテ誤解スル無カル可シ今試ミニ第一條ノ舉動アリト認定ス
 ハ如何ナル事ヲ指ス乎ト云ハ、第一條ニ謂フ所ノ安寧ヲ妨害セン
 トスル者又ハ其行爲ニ因リ安寧ヲ妨害スルニ至ル可キ者ト認定ス
 ルコトヲ更ニ認定スト云フノ意ニシテ實ニ重複タルヲ免レス故ニ
 認定ノ文字ハ此ニハ削除スルニ如カス一體本官ハ下付原案ヲ解シ
 テ保證金ノ沒收ヲ主ト爲シ在留禁止ヲ客ト爲セリ蓋シ貧人ニ在テ
 ハ保證金ヲ沒收スルハ在留禁止ヨリモ之ヲ畏憚スレトモ富人ハ之
 ニ反シテ在留ヲ禁止セラル、ハ其最モ畏憚スル所ナラン而シテ原
 案ハ客ヲ先ニシ主ヲ後ニセルヲ以テ本官ハ之ヲ改メント欲シ前修
 正說ヲ提出シタルナリ又五番ノ言ニ曰ク保證金ハ必ス沒收スルノ

意ナリト然レハ則チ在留禁止ハ主ニシテ保證金沒收ハ客ナルヲ以
 テ本官ハ確乎動カス修正案ノ苛酷ナルニ從ンヨリハ寧ロ原案ノ緩
 慢ナルヲ可トスト言ヒシニ幸ニ廿六番ノ提出セル修正說ハ其文中
 ニ認定ノ文字ヲ除去シタル等甚タ宜シキヲ得タル者タリ又第一條
 ノ精神タル在留ヲ禁止スルニ在レハ第一條ノ舉動アリテ在留ヲ禁
 止スル云々ト言フモ決シテ重複ニ非ス縱令重複ナリトスルモ若シ
 之ヲ避ル爲メニ第一條ノ舉動アリタルトキハ云々ト言フノミニシ
 テ在留ヲ禁止ストノ文字ヲ掲ケサルトキハ遂ニ其何事ヲ言フヤヲ
 解ス可カラサルナリ

○卅六番 津田眞道

本官ハ現問題ニ反シ認定ノ字ハ最モ必要ナリト思考
 ス若シ實ニ第一條ノ舉動アランニハ徒ラニ保證金ヲ沒收シ又ハ在

留ヲ禁止スルノミニ止ラサル可シ夫レ僅ニ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スル如キハ領事ニ於テ在留人民ノ其國地ノ安寧ヲ妨害セントシ又ハ其行爲ニ因テ安寧ヲ妨害スルニ至ル可シト認定セル場合ニ施ス處分ニ過キス若シ實ニ其舉動アリ即チ之ヲ大ニシテハ其地方ヲ焚燒シ其官衙ニ亂入シ其官吏ヲ殺害シ之ヲ小ニシテハ其人民ヲ毆打シタル如クンハ其重キハ刑法ニ照シテ死刑若クハ無期徒刑ニ處シ否サレハ有期徒刑ニ處ス可ク其輕キモ重禁錮等ニ處ス可キ者ニシテ其之ヲ處斷スルハ裁判官ノ職任ナリ然リ而シテ本條ニ謂フ所ノ場合ハ唯是レ領事ノ意思ヲ以テ彼ハ安寧ヲ妨害センカ又ハ彼ノ行爲ハ安寧ヲ妨害スルニ至ル可キカト認定スルニ在レハ認定ノ文字ハ必ス之ヲ存セサル可カラス要スルニ現問題ノ舉動アリ

テ云ヤト言ヘルハ亦均ク舉動アラント認定スルノ意ナル可キモ元來本條ノ認定ノ文字ハ領事ニ於テ彼ハ或ハ放火スルナラン或ハ人ヲ殺害スルナラント云フ如キノ思想ヲ以テ認定スルヲ謂フ者ナリ故ニ若シ十番ノ駁説ノ如ク認定ノ文字ヲ無用ナリトシテ之ヲ削除スルトキハ必ス大ナル錯誤ヲ生センコトヲ恐ルハナリ

○廿一番 神田孝平

本官ハ過刻廿六番ノ修正説ヲ賛成セシニ爾後發議者ハ其文案中ノ「禁止スヘキトキハ」ト言フヲ「禁止スルトキハ」ト改メタルヲ以テ今又之ヲ賛成シ併セテ反對論ヲ駁セン認定ノ文字ニ關シテハ論議紛紛タレトモ本官ハ強テ之レ有ルヲ不可ナリトハ爲サレトモ現問題ハ第一條ヲ引證シ第一條ニ記載セル舉動アリテ在留ヲ禁止スル場合ニ際スルトキハ云ヤト解ス可キカ故ニ此文字ナ

キモ意義洞暢ナリト思考ス又番外二番ハ第一條ニハ在留ヲ禁止ス
 ルト情狀ニ應シテ保證金ヲ供出セシムルトノ二様アリ然ルニ第二
 條ニ於テ單ニ第一條ノ舉動アリト言ハ、一方ノミヲ指ス如クナレ
 トモ再ヒ保證金ヲ供出シテ在留ヲ認許セラル場合ニハ如何スル乎
 ト言ヒ以テ注意ヲ喚起シタレトモ本官ノ考ル所ヲ以テスレハ此等
 ハ毫モ支障スル無シトス何トナレハ保證金ヲ沒收スト言ハスシテ
 保證金ヲ沒收スルコトヲ得ト爲シタレハナリ廿六番ノ意見モ思フ
 ニ應サニ本官ト同一ナルヘシ理由此ノ如クナルヲ以テ番外二番ノ
 批難ハ自ラ氷解ニ歸ス可キヲ信ス

(川四番 渡邊 洪基)

現問題ハ在留禁止ノ事ヲ先ニスルヲ以テ幾分カ本官
 ノ前修正說ノ精神ニ近キニ似タレトモ本官ハ寧ロ原案ヲ以テ可ナ

リトス抑モ保證金ナル者ハ保釋金ニ同シク未來ヲ保證スルノ約束
 ニ成リ保釋金ハ金圓ヲ供出シテ保釋ヲ得而シテ保證金ハ金圓ヲ供
 出シテ在留禁止ノ恩赦ヲ得ルニ外ナラス本案第一條ノ場合ハ眞ニ
 未來ニ係リ其果シテ安寧ヲ妨害スルヤ否ヤハ知ル可カラスト雖モ
 領事ニ於テ安寧ヲ妨害スルノ虞懼アリト認定スルトキハ直チニ之
 ヲ逐斥ス然レトモ其情狀ニ因テハ若干ノ期間相當ノ保證金ヲ取り
 一回ハ在留ヲ許スコト有ル可キモ再ヒ第一條ノ舉動アリト認定ス
 ルヤ其保證金ヲ沒收スルハ固ヨリ當サニ然ルヘキ所ニシテ此ノ如
 キ者ハ尙其在留ヲ禁止ス可キハ寔ニ觀易キノ理ナリ然ルニ斯ノ如
 キ雜駁ナル論議ノ出ルハ其論者ノ爲メニ本官ノ太タ惜ム所トス過
 刻五番ノ辨セシ如ク此文章ノ意義ハ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁

止スル權ヲ有スト云フニ在リテ第一條及ヒ第二條ノ得ノ字ハ此權ヲ有スト云フノ意義ニ非スシテ之ヲ爲スモ可ナリト云フニ外ナラス故ニ本官ハ午前ニ於テ「在留ヲ禁止スヘシ」トスル修正說ヲ提出セシニ不幸ニシテ消滅セリ然ルモ今意ヲ枉ケテ現問題ニ同意スル能ハス且認定ノ文字ナケレハ既ニ第一條ニ言ヘル舉動アリテ保證金ヲ供出シタル者ノ再ヒ云ヤト言フノ旨意ハ洞透スルヲ得サルナリ此ノ如クンハ寧口原案ヲ優レリトス

○十二番

河瀬
眞孝

本官モ現問題ニ同意スル能ハス其理由ハ本修正ハ在留ヲ禁止スルトキハ保證金ヲ沒收スルコトヲ得ト云フノ意義ナルヲ以テナリ抑モ再犯ノ場合ニ於テハ首トシテ保證金ヲ沒收ス可キニ現問題ハ在留ヲ禁止スルコトヲ先ニシ加之保證金ヲ沒收スルト

否サルトハ領事ノ意思ニ委スル者ト爲セリ是レ大ニ不可ナリトス故ニ本官ハ現問題ノ消滅スルヲ俟テ別ニ修正說ヲ提出セン其修正說ハ午前ニ於テ問題ト爲リタル卅四番ノ修正說ト幾ント相同ク「トキ」ヲ時トシ「仍ホ」ノ「一」字ヲ削リ「禁止スルコトヲ得」ヲ禁止スヘシト爲スニ在リ因テ豫メ之ヲ陳フ

○廿三番

柴原
和

本官ノ認定ノ文字ヲ無用ナリト辨シタル爲メニ一議官ノ譴責ヲ來シタレトモ本官ハ仍ホ未タ「認定」ノ文字ノ其有用ナル理由ヲ覺知スル能ハス若シ卅六番等ノ如キ憂慮ヲ置クトキハ第一條ノ全文ヲ掲ル歟否サレハ第一條ノ舉動アリテ該地方ノ安寧ヲ妨害セントスル者又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧ヲ妨害スルニ至ルヘキ者云ヤト言ハサル可カラス蓋シ「舉動アリテ」ノ文字ヲ實行

セシ者ノ如ク辨スルハ唯其事ヲ大ニシテ之ヲ論スルニ過キサルノ
 ミ若シ強テ認定ノ文字ヲ要ストナラハ宜ク第一條ノ全文ヲ掲載ス
 ヘシ既ニ第一條ノ舉動ト言ハ、第一條ニ掲ル所ノ舉動ナルハ明晰
 ナリ卅六番ノ如キ眼光紙背ニ徹スルノ智士ニシテ其思慮ノ此ニ至
 ラサルハ本官ノ怪訝ニ堪ヘサル所ナリ又十二番ハ此問題說ノ消滅
 セハ午前ニ於テ卅四番ノ提出セシ修正說ト稍ヤ相同キ者ヲ把テ再
 ヒ修正ヲ試ミンコトヲ豫陳セリ其說タル既ニ一タヒ消滅ニ歸セシ
 者ト相同キナラハ敢テ再論ヲ要セサレトモ保證金ノ事ハ第一條ノ
 但書ニ記載スル便宜法ニ出テ在留禁止ノ事ハ即チ正則ナリ正則ヲ
 舍キテ便宜法ヲ主トス可キ理由ハ萬萬之レ無ク而シテ保證金ヲ沒
 收シ尙且在留ヲ禁止スルハ苛酷ニ過ク故ニ不幸ニシテ現問題ノ消

滅ニ歸スル有ラハ本官ハ已ムヲ得スシテ卅六番ノ終始不動ノ金鐵
 心ニ從ヒ原案ニ同意ヲ表ス可キノミ

○十番 箕作 麟祥

廿三番ノ反駁スル如ク第一條ノ全文ヲ掲ルモ不可ナル
 無シト雖モ此ノ如ク其文ヲ省略シタル類例ハ蓋シ少ナカラス然ル
 ニ舉動ノ文字アレハ認定ノ文字ハ除カサル可カラスト言フハ賢明
 ナル廿三番ノ說ニ似スト謂フ可シ請フ看ヨ舉動トハ在留人民ノ舉
 動ナルカ將タ領事ノ舉動ナルカヲ即チ認定スル者ハ領事ニシテ舉
 動アル者ハ在留ノ人民ナリトス若シ廿三番ノ說ノ如ク認定ノ文字
 ハ舉動ノ文字ニ含蓄スト爲セハ領事ニシテ此二者ヲ爲ス者ノ如シ
 如何ナル場合ト雖モ領事自ラ舉動シテ自ラ之ヲ認定スルコト有ラ
 シヤ領事モ日本人タルニ外ナラサレトモ在留日本人ヲ提督スル官

人ニシテ此法案ハ在留日本人ヲ提督スル規則ナリ其舉動トハ或ハ
火ヲ放チ或ハ人ヲ殺ス等ノ事ヲ云フ然ルニ「舉動アリテ」ト言ヘル
文字ノ中ニ「認定」ト言ヘル文字ノ意味ヲ含蓄セリト爲スハ實ニ解
ス可カラサルノ甚シキ者ニ非ス耶

○卅一番 大鳥圭介 認定ノ文字ニ關シテ種種ノ論辨アルモ十番ノ説ク如
ク「舉動アリテ」ト言ヘル文字ニ認定ノ意味ヲ含蓄スルトハ本官モ
領會スル能ハサルヲ以テ認定ノ文字ハ必ス存セサル可カラスト思
惟ス蓋シ法律ハ務メテ明瞭ナラシムルヲ要ス然リ而シテ只今十二
番ハ「仍ホ」ノ二字ヲ省キ「禁止スルコトヲ得」ヲ禁止スヘシト修正セ
ントスル意見ヲ豫陳セリ是レ甚タ其宜キヲ得タルヲ以テ本官ハ其
説ノ出ルヲ俟チ以テ之ヲ賛成セントス

○廿三番

柴原和

認定ノ文字ヲ必要ト爲スハ獨リ十三番及ヒ卅六番ノ
二議官ノミト思惟セシニ其他ノ議官ニシテ亦之ヲ必要ト爲ス者ア
リ本官爲メニ尙ホ一言セサルヲ得サルニ至レリ論者ハ認定ノ文字
ハ舉動ノ文字ノ中ニ含蓄スト言ハ、領事自ヲ舉動シテ自ラ之ヲ認
定スル者ノ如シト云フト雖モ既ニ第一條ノ舉動アリテト言ヘハ其
果シテ何事タルヤ苟モ少シク文字ヲ解スル者ナランニハ容易ニ領
會スルヲ得ヘシ之ヲシモ領會スルニ難シト爲サハ第一條ノ全文ヲ
複掲スルノ外ニ他ノ方ナキノミ

○議長 廿六番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ廿六番ノ修正説ハ消滅ス

○十二番 河瀬 眞孝 過刻豫陳セシ如ク此ニ修正説ヲ提出セン本官ハ本條

ノ「トキ」ヲ時ト改メ「仍ホ」ノ二字ヲ削リ「禁止スルコトヲ得」ヲ禁止スヘシト爲スヲ可トス本官ハ當初原案ヲ可ナリト信シタレトモ内閣委員ヨリ意外ナル説明ヲ得テ爲メニ大ニ疑惑ヲ生シ原案ノ如クシテハ註釋ヲ附シテ領事ニ授クルニ非スンハ則チ或ハ註誤ヲ生スルノ恐レ有リ内閣委員ニシテ説明ヲ過マル如キハ畢竟其文字ニ瑕瑾アルヲ免レスト考フルヲ以テ今此修正説ヲ提出スルニ至レルナリ幸ニ此意ヲ領シテ各位ノ之ヲ賛成センコトヲ望ム

○卅一番 大鳥 圭介 賛成

○議長 十二番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○卅四番 渡邊 洪基 十二番ノ修正説ヲ得テ第三條ハ稍ヤ穩安ニ歸セルニ

似タレトモ「仍ホ」ノ二字ヲ削ルニハ同意スル能ハス其理由ハ保證

金ヲ供出シタル者再ヒ第一條ノ舉動アリト認定セハ之ヲ沒收シテ其事終ル可キニ之ニ加フルニ在留禁止ヲ以テスルナレハ若シ現問題ノ如ク保證金ヲ沒收シ在留ヲ禁止スヘシト爲ストキハ文章簡短ニ失スルヲ免レス且第一條ニ因テ禁止スルナレハ「仍ホ」ノ二字ヲ置サレハ第一條トノ緣故ハ益距遠スルニ至ラン從來此ノ如キ場合ニ「仍ホ」ノ文字ヲ用ヒタル例ハ少ナカラス彼ノ酒造稅則ノ如キモ「罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス」ト言ヒ且附加刑等ノ場合ニハ概ネ「仍ホ」ノ文字ヲ置ケリ故ニ遺憾ナカラモ現問題ニ同意スル能ハサルナリ

○廿三番 柴原 和 本官ハ素ヨリ現問題ニ同意スル能ハス見ニ其精神ヲ

好ミスル卅四番ニシテ尙且「仍ホ」ノ二字ナキカ爲メニ之ニ同意セ
スト云ヘリ元來法文ニハ此ノ如キ場合ニ於テ常ニ「仍ホ」ノ文字ヲ
用フルヲ慣習ト爲ス但シ十二番ノ精神ハ在留ヲ禁止スルハ一年以
上三年以下ニ非スシテ終身ト爲スニ在ル乎若シ然ラハ益不可ナ
リ萬一此ノ如キ問題說ニ可決センニハ本官ハ午前ニ卅四番ノ修正
說ニ同意セサリシヲ憾ムノミ

○廿一番神田孝平 十二番ノ修正說ヲ賛成ス本官ハ數種ノ修正說ノ出ル
毎トニ輒チ之ヲ賛成スルニ似タレトモ本官ノ素論ハ再ヒ第一條ノ
舉動アル者ハ在留ハ必ス禁止シ而シテ保證金ヲ沒收スルト否トハ
一ニ領事ノ意思ニ委スルヲ好シトスルニ在ルヲ以テナリ故ニ既ニ
廿三番廿六番等ノ動議ヲ賛成シタレトモ共ニ消滅ニ歸シタル以上

ハ已ムヲ得スシテ一半ハ斷念スルモ尙ホ一半タモ素論ヲ貫カント
欲スルナリ抑モ第一條ニハ「認定スル時ハ云々在留スルコトヲ禁止
スヘシ」ト言ヘル明文アルニ本條ニ「再ヒ第一條ノ舉動云々在留ヲ
禁止スルコトヲ得」ト言ハ、條理貫徹セス故ニ此一點ノミニテモ改
良セント欲スルヲ以テ十二番ノ修正說ノ行レンコトヲ希望ス蓋シ
現問題ノ文案タル「仍ホ」ノ二字ヲ除ケハ他ハ午前ニ卅四番ノ提出
セシ修正說ト異ナラサレトモ退テ考フルニ當時其修正說ノ可決ヲ
得ルニ至ラサリシハ「仍ホ」ノ二字ヲ嫌フ人ノ多キニ由レル歟而シ
テ十二番ノ「仍ホ」ノ二字ヲ削リ其他ハ前修正說ト同一ナル修正說
ヲ提出シタルハ前修正說ト同文ナルヲ避ルニ由レル歟到底原案ニ
決スルトキハ領事ノ隨意ニ委スルノ恐レ有ルヲ以テ其得失ノ大小

輕重ヲ考量シ幾分カ忍フ所ナカラサル可カラズ卅四番ノ如キハ「仍ホ」二字ヲ削レルヲ以テ反テ問題ニ同意セスト云フト雖トモ令若シ原案ニ決セハ益本官等ノ本旨ニ違フノ憾ミ有リ要スルニ「仍ホ」ノ二字ハ存廢俱ニ其關係甚タ輕シト雖モ原案ノ如ク「禁止スルコトヲ得」ト決スルトキハ其害ヤ頗ル重大ナルヲ以テ望ラクハ各位ノ現問題ニ左袒セラレシコトヲ而シテ本官ニ在テモ「禁止スヘシ」ト爲スヲ緊要ナリトシテ現問題ニ同意スルノミ

○廿三番 柴原和 廿一番ハ十二番ノ思想中ニ闖入シテ十二番ノ「仍ホ」ノ二字ヲ削レルハ午前ニ消滅セシ修正説ト同一ナルヲ避ル爲メナラン歟ト陳述スト雖モ本官ハ動議者ノ旨趣ハ然ラスト信ス何トナレハ其修正説中下キヲ時ト修正セント言ヘハ午前ノ修正説トハ既

ニ同一ナラサルヲ以テナリ故ニ若シ「仍ホ」ノ二字ヲ重要ナリトセハ強テ之ヲ除カサル可ク而シテ其之ヲ除キタルハ恐クハ終身在留ヲ禁止セントスルノ意ニ出テタルニ非サル乎

○卅四番 渡邊洪基 唯今廿一番ハ本官等ニ對シ陰ニ忠告ヲ爲シタリ本官ハ素ヨリ「禁止スルコトヲ得」ト言フヲ不是ナリト思考シテ熱心ニ辨論シタレトモ遂ニ消滅ニ歸シタルノミ現問題ノ如クハ衷心甚タ安ンセサル者アルニ因リ假令一時之ニ可決スルモ第三讀會ヲ俟テ仍ホ恢復ヲ謀ラント欲ス決シテ午前ノ精神ヲ拋棄スルニハ忍ヒサルナリ

○議長 十二番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ
起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ十二番ノ修正説ハ消滅ス他ニ發議ナクシハ本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第四條 退去期限若クハ猶豫期限内ニ退去セサル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上百圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ本條ニ同意者ハ起立セヨ

○職員 總員起立

○議長 全會一致ナルニ因リ本條ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第五條 此規則ノ處分ニ對シテハ上訴ヲ許サス

右奉 勅旨布告候事

○議長 第五條以下ニ同意者ハ起立セヨ
起立者十五人

○議長 多數ナルニ因リ本案ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢リ引續キ第三

讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

布告案

清國及朝鮮國在留日本人取締規則左ノ通制定ス

○議長 本案ニ同意者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルニ因リ第一條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第一條 清國及朝鮮國駐劄ノ領事ハ在留ノ日本人該地方ノ安寧ヲ妨害セントスル者又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧ヲ妨害スルニ至ルヘキ者ト認定スル時ハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ但其情狀ニ由リテハ其期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得

○議長 發議ナキニ因リ第一條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若シ期限内退去シ難キ正當ノ事由アリテ其旨ヲ申立ル時ハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得

○議長 第二條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第三條 保證金ヲ出シタル者再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スルトキハ領事ハ其保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スルコトヲ得

○卅四番 渡邊 洪基

本官ハ已ムヲ得ス本條ニ對シテ復タ修正說ヲ提出ス其修正文案ハ第二讀會ニ陳述セシ如ク「禁止スルコトヲ得」ヲ禁止スヘシト爲スニ在リ而シテ其理由ハ別ニ多辨ヲ要セサレトモ既ニ第一條ニ「在留スルコトヲ禁止スヘシ」トノ明文アレハ必ス之ト同一ナラシメサル可カラス加之原案ノ「得」ノ字モ第一條第二條ニ在ル「得」ノ字ニ比スレハ其關係頗ル重シ然ルニ原案ノ如クセハ或ハ恐ル領事ニ於テ保證金ヲ沒收セサルコトヲ得又在留ヲ禁止セサル

コトヲモ得ト誤解スル有ランコトヲ是レ此修正説ヲ提出スル所以ナリ幸ニ定數ノ賛成者ヲ得テ此動議ノ問題ト爲ランコトヲ望ム

○三番 黒田清綱 卅四番ニ問フ第二讀會ニ於テハ「トキ」ノ字ヲ時ニ改ルノ説アリシト覺フ今之ヲ如何スルカ

○卅四番 渡邊洪基 「トキ」ノ字ハ第一條ノ例ニ倣ヒ時ト改作スルノ意ナリ

○三番 黒田清綱 賛成

○十番 箕作麟祥 賛成

○廿一番 神田孝平 賛成

○卅一番 大鳥圭介 賛成

○十二番 河瀬真孝 賛成

○議長 卅四番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○卅四番 渡邊洪基 現問題ハ別ニ辨論ヲ要セサル可シト思考スルニ因リ

直チニ決ヲ起立ニ取ラレンコトヲ欲ス

○議長 卅四番ノ修正ニ同意者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 正半數ナルニ因リ職權ヲ以テ之ヲ定メン本席ニ於テハ卅四番ノ修正説ヲ至當ト認ムルヲ以テ之ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第四條 退去期限若クハ猶豫期限内ニ退去セサル者及禁止期限ヲ

犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上百圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

○議長 本條ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 多數ナルニ因リ本條ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第五條 此規則ノ處分ニ對シテハ上訴ヲ許サス

右奉 勅旨布告候事

○議長 第五條以下本案ニ同意者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 多數ナルニ因リ本案ニ決シ茲ニ第三讀會ヲ畢ル且本會ノ決

議ヲ以テ確定決議會ト爲スニ同意者ハ起立セヨ

起立者十一人

○議長 多數ナルニ因リ本會ノ決議ヲ看テ確定決議會ト做ス乃チ修

正ノ理由ヲ具シテ例ニ遵ヒ上奏セン散會セヨ

午後第二時三十分閉場

元老院會議筆記明治十六年三月十六日

○第三百八十一號議案朝鮮國行步規程ヲ犯シ備第一第二及第三讀會

議長代理
東久世通禧

出席議員

三番 黑田 清綱

四番 津田 出

六番 大給 恒

八番 鷺尾 隆聚

九番 西 周

十番 箕作 麟祥

- 十二番 河瀬 眞孝
- 十三番 伊集院兼寛
- 十六番 楠本 正隆
- 十八番 渡邊 清
- 十九番 大久保一翁
- 二十番 榎村 正直
- 二十一番 神田 孝平
- 二十三番 柴原 和
- 二十四番 三浦 安
- 二十六番 鍋島 直彬
- 二十九番 鍋島 幹

- 三十一番 大鳥 圭介
- 三十二番 福原 實
- 三十三番 伊丹 重賢
- 三十四番 渡邊 洪基
- 三十五番 本田 親雄
- 三十六番 津田 眞道
- 三十八番 野村 素介
- 三十九番 西村 貞陽

内閣委員番外 参事院議官補山脇 玄

午前第十時開場

○議長 本日ハ第三百八十一號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ

後例ニ遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山茂 朗讀

布告案

朝鮮國ニ於テ行歩規程ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

○番二番 山脇玄

本案ノ旨趣ヲ畧陳セン我國ト朝鮮國トノ修好條規中我人民行歩ノ規程アリト雖モ之ヲ犯シタルトキノ處分法ナク又刑法ニ於テモ之ヲ處罰スルノ正條ナシ故ニ往々之ヲ犯ス者アリテ那ノ安邊ノ變ノ如キモ其源因スル所亦之ニ外ナラサルナリ今ヤ我國朝鮮國ト交際ヲ親密ニシ真正ノ貿易ヲ振起セントスルノ日ニ方リ

此法ヲ設クルハ最モ緊要ナリトス故ニ曾テ我國ト壤地利トノ條約中行歩規程ヲ犯シタル者ノ處分法ニ倣ヒ本案ヲ起草セリ是レ外交政畧上止ムヲ得サルモノナレハ各位之ヲ諒シテ本案ノ如ク議決アラシコトヲ希望ス

○三十六番 津田眞道

本案ハ番外二番ノ辯明ノ如ク至極穩當ナルモノニヨリ之ヲ贊成ス回顧スレハ曩ニ朝鮮國ニ於テ彼土民暴動ヲ爲シ我國人ヲシテ九死一生ノ難ニ遭遇セシメタルモ其原ク所安邊等ニ於テ我人民ノ行歩規程ヲ犯シタルカ如キ幾分カ之カ媒ヲ爲セシヤ知ルヘキナリ夫レ強ノ弱ヲ侮ルハ古來勢ノ然ラシムル所ナリト雖モ是等ノコトハ今日交際上最モ慎マシムルハアルヘカラス故ニ彼我兩國ノ交際ヲシテ益親密ナラシメント欲セハ斯ノ如キ法ヲ設ケテ我

ノ放逸ヲ誠メ以テ彼ノ信用ヲ得ルヲ務ムヘシ是レ最モ緊要事件タ
リ夫レ本案ハ此ノ如ク極メテ緊要ニシテ且簡單ナルモノナレハ此
會議ヲシテ數日ヲ費スヲ要セストス冀クハ引續第二及ヒ第三讀會
ヲ開カンコトヲ因テ本案ニ同意ヲ表シ併テ之ヲ建議ス

○六番 大給 恒 三十六番ヲ賛成ス

○議長 發議盡タルヲ以テ此ニ第一讀會ヲ畢ル然ルニ三十六番ヨリ
引續第二及第三讀會ヲ開クヘキノ建議アリ之ニ同意者ハ起立スヘ
シ

起立者二十三人

○議長 多數ナルニヨリ引續第二讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

朝鮮國ニ於テ行歩規程ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ
處ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ
全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢リ引續第
三讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

朝鮮國ニ於テ行歩規程ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ

處ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第三讀會ヲ畢ル決議ノ次第
ハ例ニ遵ヒ上奏セン散會スヘシ

午前第十時十分閉場

元老院會議筆記明治十六年三月二十六日

○第三百八十二號議案 石油取締規則檢視會
施行延期ノ儀

議長代理
東久世通禮

出席議員

三番	黑田	清綱
四番	津田	出
六番	大給	恒
八番	鷺尾	隆聚
九番	西	周
十番	箕作	麟祥
十二番	河瀬	真孝

十三番	伊集院兼寛
十四番	岩下方平
十六番	楠本正隆
十八番	渡邊清
十九番	大久保一翁
二十番	榎村正直
廿一番	神田孝平
廿四番	三浦安
廿六番	鍋島直彬
廿九番	鍋島幹
卅一番	大鳥圭介

卅二番	福原實
卅三番	伊丹重賢
卅四番	渡邊洪基
卅五番	本田親雄
卅六番	津田真道
卅八番	野村素介
卅九番	西村貞陽

午前第九時三十五分開場

○議長 第三百八十二號議案ノ檢視會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

第拾號

明治十五年^{八月}第四拾四號布告及本年^{二月}第六號布告石油取締規則施行日限ノ儀ハ追テ布告候マテ延期ス

右奉 勅旨布告候事

明治十六年三月十六日

太政大臣三條 實美

内務卿 山田 顯義

○卅六番^{津田} 本案ハ讀テ字ノ如クスレハ文章ニハ不備不明ナル無しト雖モ施行日限ヲ延展スル一事ニ至テハ不備不明ナリト謂ハサルヲ得ス抑モ石油取締規則ハ再三本院ノ議ヲ經由シタル者ニシテ内閣委員モ亦之ヲ施行スルニ障礙ナカラシコトヲ明言セリ然ルニ何ソ圖ラン本案ノ如ク施行日限ヲ延展セサルヲ得サルニ至ラントハ是レ本官ヲシテ本案ノ文章ノ明備ナルニモ拘ラス故サラニ之ヲ

認メテ不明不備ナリト做シ而シテ強テ明備ナリト斷言セサルヲ得サラシム請フ其所以ヲ説明セン聞ク外國商人ノ豫テ粗惡ノ石油ヲ本邦ニ輸到シ而シテ之ヲ販賣セントスルニ方リ石油取締規則ノ改正ニ會ヒ彼レ之ヲ販賣スル能ハサルニ因テ苦情ヲ鳴ス者アリ遂ニ本案ノ發布ヲ必要トスルニ至レリト然レトモ元來此規則ハ火災ヲ豫防スル爲メニ制定シタル者ニシテ所謂公衆ノ爲メニスル者ナレハ假令某人民ノ之カ爲メニ損失ヲ被ル者アルモ復タ之ヲ奈何トモスル能ハス彼ノ地租ナリ家屋稅ナリ其賦課ヲ受ル者ヨリ之ヲ言ヘハ眞ニ困苦スルナル可シ然リ而シテ之カ宥恕ヲ請フモ其允許ヲ得サルヤ必セリ獨リ地租家屋稅ニシテ然ルニ非ス酒造稅賣藥印紙稅ノ如キ我人民ハ之カ爲メニ從來ノ營業ヲ繼續スル能ハサル如キコ

ト有ルモ我人民ハ敢テ其法令ニ悖戾スルヲ得ス又悖戾セサルナリ
 然ルニ外國商人ノ此規則ニ對シ僅ニ苦情ヲ唱フル有ルカ爲メニ條
 焉トシテ此ノ如キ法律ヲ布クヲ要スルハ道理上得テ解ス可カラス
 ト雖モ我國目今ノ景況ヲ考フルニ假ヒ在留外國人ニシテ我國人ノ
 身命ヲ殺傷シ若クハ我國人ノ財産ヲ盜奪スルモ我法律ハ以テ彼ヲ
 處罰スル能ハス故ニ外國ノ一商人ト雖モ我法律ニ對シテ不滿ヲ唱
 ヘ苦情ヲ鳴シ其公使ヲ經テ之カ改正等ヲ我政府ニ申訴スルニ於テ
 ハ我ニ在テ勢ヒ一步ヲ彼ニ讓ラサルヲ得ス是レ蓋シ我國力ノ彼ニ
 及ハサルニ因ル耶若クハ開化ノ未タ洽チカラサルニ因ル耶ト言ハ
 レニ是レ國力ノ彼ニ及ハサルニ因ルヤ明白ナリ近來我政府ニ於テ
 酒稅其他ノ稅ヲ増シテ一千萬圓ノ金額ヲ得之ヲ以テ一層ニ陸海軍

ヲ擴張セントスルモ漸ヲ逐テ我國力ヲ張リ以テ前陳ノ如キ失當ヲ
 矯濟セントスル希望ニ出ルヤ知ル可シ抑モ我國ノ陸海軍ヲ擴張シ
 テ歐洲諸大國ト同一ノ交際ヲ爲シ萬國公法ニ明示セル如ク各國ト
 對等ノ國權ヲ振張スルノ日ハ果シテ何ノ時ニ在ルカ今日ハ國體上
 法律上共ニ失當ナリト認ルコト有ルモ已ムヲ得ス瞑目シテ彼ノ言
 フ所ニ從セ本案ノ如キ一國ノ體面ヲ缺ケル布告ヲモ發セサルヲ得
 サルナル可ク本院ニ於テモ亦之ヲ默許否ナ明許セサルヲ得サルヲ
 奈何セン以上ニ陳述セル如キノ理由ナルヲ以テ本官ハ本案ニ對シ
 テハ道理上甚タ失當ナリト思惟スルモ哀ム可シ我國ノ景況ニ在テ
 ハ今日之ヲ奈何トモスル能ハスト爲シ瞑目シテ以テ本案ヲ明備ナ
 ル者ナリトスルナリ

○議長 本案ヲ明備ナリト思考スル者ハ起立セヨ
總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ノ檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シ例ニ從
ヒ上奏ス可シ

右畢テ第三百八十三號議案第一讀會ヲ開ケリ

元老院會議筆記明治十六年三月二十六日

○第三百八十三號議案 船稅規則案第一第二及第三讀會 第三百八十二號議

案檢視會
ノ後開場

議長代理
東久世通禧

出席議員

- 三番 黒田 清綱
- 四番 津田 出
- 六番 大給 恒
- 八番 鷺尾 隆聚
- 九番 西 周
- 十番 箕作 麟祥

十二番 河瀬 眞孝
 十三番 伊集院兼寛
 十四番 岩下 方平
 十六番 楠本 正隆
 十八番 渡邊 清
 十九番 大久保一翁
 二十番 榎村 正直
 廿一番 神田 孝平
 廿三番 柴原 和
 廿四番 三浦 安
 廿六番 鍋島 直彬

廿九番 鍋島 幹
 卅一番 大鳥 圭介
 卅二番 福原 實
 卅三番 伊丹 重賢
 卅四番 渡邊 洪基
 卅五番 本田 親雄
 卅六番 津田 眞道
 卅八番 野村 素介
 卅九番 西村 貞陽

閣内閣委員 一番 参事院議官 渡邊 昇
 参事院員外議官 補神 鞭 知常

○議長 第三百八十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク例ニ從ヒ發議スヘシ

書記官 森山 茂

朗讀 委員 一 齋藤 潤吉 齋藤 潤吉

修正案

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ
世八番 磯持 兼介

一 世六番 新田 良重

二 世五番 水田 廣義

三 世四番 齋藤 兼盛

四 同積石五拾石未滿 自軸梁 長 三間迄ハ、、、、、

艇漁船小廻船積石ニ 拘ラスニ 長 三間迄ハ、、、、、

但

五遊船

長 自軸梁 三間迄ハ、、、、、

但

第十九條 削除

第二十條 第十九條ト改ム

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條

ニヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上

○ 壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 削除

第二十二條 第二十一條ト改ム

○ 外 一番 渡邊 昇

茲ニ本案再議ニ付セラレタル主意ヲ聊陳述セン第一

本案第六條中梁ノ字ヲ加ヘ軸梁艦梁トセシハ格別理由アルニアラ

ス即チ現行法ニ依準セシモノニシテ若シ此梁ノ字ナキトキハ地方

官ニ於テ之ヲ検査スルニ方リ其尺度梁外ニ及ホシ或ハ人民ニ迷惑
 ヲ與フルナキヲ保セス故ニ之ヲ加ヘタルナリ又罰則ノ罰金ヲ科料
 ニ止メタルハ夫ノ酒造稅則烟草稅則ノ如キ願出届出等ヲ犯スモノ
 ハ科料ニ處スルノ例ナルニ本案獨リ罰金ヲ科スルハ其罰ノ輕重彼
 此權衡ヲ得サルヲ以テナリ是レ本案再議ニ附セシメタル所以ナリ
 ○十番案作 詳 本案ハ嚮ニ本院ニ於テ議定上奏セル所ノ船稅規則中更
 ニ再議ニ付セラレタルモノナリ今内閣委員ハ梁ノ字ヲ加ヘタルハ
 現行法ニアルノミナラス之ナケレハ人民ニ迷惑ヲ來スヲ以テナリ
 卜陳述セリ必ス然ラシ然ルニ本官ハ造船ノ事ニ迂濶ニシテ既ニ現
 行法ニ掲クル所梁ノ字スラ尙ホ其何タルヲ知ラサルナリ因テ其梁
 タルヤ船體ノ何ノ邊ヲ指ス歟或ハ此字ナケレハ如何ナル支障アル

歟内閣委員ノ辨明ヲ乞フ

○番一渡邊 昇

造船ノ事タル本官モ亦知悉セルニアラスト雖モ唯僅

カニ此字義ニ就テ十番ノ間ニ答ントス夫レ梁トハ艦ノ方ニ於テハ
 舵ヲ附着スル所ノ横木ヲ云ヒ舳ノ方ニ於テモ亦横木ヲ云フナリ蓋
 シ此横木ヨリ尖頭マテノ分ハ貨物ヲ載スル爲メニアラスシテ即チ
 船體運行ノ爲ニ設クルモノナリ故ニ其尺度ヲ當ツルハ必ス梁ヨリ
 梁マテヲ以テ之ヲ量ルモノトスルナリ向ニ内閣ニ於テハ敢テ此梁
 字ヲ要セサルヘシトシテ除去シタリシニ若シ之ヲ除去スルトキハ
 地方官ニ於テ今回ノ改正ハ舳ヨリ艦ニ至ルマテ尺量スルノ意ナル
 歟或ハ從前ノ如ク梁ヨリ梁マテヲ測量スルノ意ナル歟ノ疑團ヲ生
 スルナキヲ保セス但シ其疑義ノ如キハ地方官ヨリ主務ノ官廳ニ就

テ明解ヲ乞ヘハ一問判然スヘシト雖モ或ハ梁外即チ横木外舳ヨリ
 艦マテ一体ニ測量スルモノ等アリテ検査區々ノ弊ヲ來スヤモ知ル
 ヘカラス因テ之カ明瞭ヲ欲シ現行法ニ依準シテ梁ノ字ヲ加ヘタル
 ナリ

○六番 大給 恒

本案梁ノ字義ハ内閣委員ノ詳細ナル辨明ニ因テ了解セ
 リ然ルニ梁ノ字ハ「ハリ」ト訓シ當初現行法ノ創定ニ方リ梁ノ字ヲ
 用ヒタルモノハ從來造船者水手等ノ唱ヘ來ルニ原因スルモノ歟或
 ハ其形「ハリ」ニ似タルヲ以テ起草者ノ意想ニ出テタルモノ歟本官
 ハ此解釋ヲ得テ考證ノ一端トナサントス因テ内閣委員ニ問フ

○番 渡邊 昇

六番ノ質議ハ少シク問題外ニ涉ルモノ、如ク思考ス
 レトモ一應本官ノ覺悟スル所ヲ以テ之ヲ陳述スヘシ夫レ梁ノ字義

タル從來造船者水手等ノ慣用シ來リタル言語ニ依リシヤ否ヤハ明
 答シ能ハサル所ナリト雖モ此梁字ハ造船者水手等ニ有用ニアラス
 シテ其船体ヲ検査スルニ頗ル有用ナルモノナリ因テ現行法起草ノ
 時モ此有用ニ就テ之ヲ用ヒシヤ知ルヘシ本案更ニ此字ヲ加ヘシモ
 亦此ニ外ナラサルナリ

○三十四番 渡邊 洪基

本案ハ曩ニ本院ノ議定上奏セルモノニシテ内閣ニ
 於テ更ニ修正ヲ加ヘ再議ニ付セラレタルモノナリ而シテ其修正タル前
 議案中ノ字議ヲ明ニシ且第二十條ノ罰金ヲ科料ニ改メタルニ過キ
 サルヲ以テ別ニ質議ヲ要セスシテ可ナラン且本則モ之カ爲メニ未
 タ布告ニ至ラス故ニ本日直ニ第二第三讀會ヲ開カレンコトヲ建議ス

○議長 本案第一讀會ヲ了ル然ルニ三十四番ヨリ直ニ第二讀會第三

○讀會ヲ開カント欲スルノ建議アリ該建議ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者十八人ニ本日は...

○議長 多數ナルヲ以テ直ニ第二讀會ヲ開ク
書記官 森山 朗讀

修正案

○第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

一 汽船

二 帆船

三 其他

同積石五拾石未滿

四 解漁船小廻船

自舳梁
長 三間迄ハ、、、、、

至舳梁

但

五遊船

長 自舳梁 三間迄ハ、、、、、

但

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本條ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者二十三人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ヲ可決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山 朗讀

第十九條 削除

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可ト認メ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山 朗讀

第二十條 第十九條ト改ム

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可ト認メ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 朗讀

○第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條

ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本條ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者二十五人

書記官 森山茂 朗讀

第二十一條 削除

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可ト認メ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 朗讀

第二十二條 第二十一條ト改ム

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ン本條ニ同意者ハ起立スヘシ
起立者廿四人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ヲ可決ス茲ニ第二讀會ヲ了リ續テ第三讀會ヲ開ク

○三十六番 津田眞道 本案ハ前會ニ於テモ一ノ論議ナシ因テ本案ノ各條連帶シテ決ヲ取ラレンコトヲ建議ス

○議長 三十六番ノ建議ヲ採用シ本案各條ヲシテ連帶朗讀セシメン
書記官 森山茂 朗讀

修正案

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

一

二

三

四

同積石五拾石未滿

自舳梁

解漁船小廻船積石ニ拘ラス

長 至舳梁

三間迄ハ、、、、、

但

五遊船

長 自舳梁

三間迄ハ、、、、、

但

第十九條 削除

第二十條 第十九條ト改ム

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條

ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上

壹圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス

第二十一條 削除

第二十二條 第二十一條ト改ム

○廿一番 神田 孝平

第六條中瑣細ナル文字ノ誤リアリ即チ第五項長字ノ

下脚註至自ノ二字轉置セシカ如シ但書記官モ前項ト同シク朗讀シ

タルヲ以テ印刷ノ際或ハ誤植ニハアラサル歟瑣末ノ事ナレトモ前

項ト同一ナランコトヲ欲ス

○議長 全ク印刷ノ誤ナリ各位之ヲ諒セヨ他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ

取ン本案各條ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ヲ可決シ茲ニ第三讀會ヲ了ル決議ノ次
第八例ニ從ヒ上奏セン散會スヘシ

午前第十時二十分閉場

○第一番 議案 農工商諸問會第一第二及第三讀會
第二十二番 議案 農工商諸問會第一第二及第三讀會
第二十三番 議案 農工商諸問會第一第二及第三讀會
第二十四番 議案 農工商諸問會第一第二及第三讀會
第二十五番 議案 農工商諸問會第一第二及第三讀會

元老院會議筆記明治十六年四月二十日

○第三百八十六號議案 農工商諸問會第一第二及第三讀會
規則廢止ノ儀

議長 佐野常民

出席議員

- 一番 三浦 安
- 二番 楠本 正隆
- 四番 神田 孝平
- 五番 東久世通禧
- 八番 箕作 麟祥
- 九番 柴原 和
- 十番 本田 親雄

十三番	大久保一翁
十四番	野村素介
十五番	岩下方平
十七番	伊丹重賢
十八番	津田出
十九番	福原實
二十番	大鳥圭介
廿一番	鍋島直彬
廿二番	渡邊洪基
廿三番	河瀬眞孝
廿四番	津田眞道

廿六番	鷺尾隆聚
卅三番	鍋島幹
卅五番	伊集院兼寛
卅七番	西村貞陽
内閣委員	安場保和
参事院議官	保和
参事院議官補落合	濟三

午前第九時三十分開場

○議長 第三百八十六號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後ニ例

ニ遵ヒ發議セヨ

書記官 森山 朗讀

布告案

明治十四年五月第貳拾九號布告廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○番二番落合 濟三 本案ハ明治十四年五月第二十九號布告ヲ以テ制定セ

ラレタル農商工諮問會規則ヲ廢止スル爲メニ之ヲ發セントス蓋シ
客歲農商工諮問會規則ヲ廢止シ更ニ勸業委員規則ヲ制定スルノ議
案ヲ本院ノ議定ニ付セラレタルニ際シ本員ハ其議案ノ內閣委員ト
シテ本席ニ班シタルヲ以テ之カ發布ヲ要スル理由ハ業已ニ陳述シ
タレハ當時此議場ニ在リタル議官ハ定メテ其旨趣ノ存スル所ヲ領
知セラル可キモ今仍ホ本案ニ關スル實際ノ形跡ヲ陳述シ以テ各位
ノ參考ニ資セントス抑モ各地方農商工ノ實況ヲ視察シテ勸業ノ事
務ヲ着實ナラシメ倍其改進ヲ圖ル爲メニ農商工諮問會規則ヲ制

定シテ之ヲ布告シタルハ實ニ十四年五月ナリシ爾來各地方ノ情況
ヲ觀ルニ實際種種ノ障礙アルヲ以テ農商務卿ハ同年各地方官ノ上
京セルニ際シ試ミニ諮問會規則ノ實施ニ關スル意見ヲ諮詢シタル
ニ歸府縣ノ後チ各自ニ意見ヲ具申シ其具申スル所ハ多少ノ差異ア
リト雖モ要スルニ現行法ハ到底行ハレ難キヲ以テ之ヲ廢止ス可シ
ト云フト之ヲ改正ス可シト云フトノ二說最モ多數ヲ占メ農商務卿
モ農商工諮問會規則ノ遂ニ實施スルニ難キヲ覺知シ乃チ之ヲ廢止
シテ更ニ勸業委員規則ヲ制定スル法案ヲ起草シテ內閣ニ稟上シ參
事院ノ審議ヲ經テ本院ノ議定ニ付セラレタルハ實ニ客歲四月ニ在
リ然ルニ本院ニ於テ其第二讀會ヲ開クニ先タチ內閣ノ要求ニ因テ
同案ヲ繳還シ農商務卿モ勸業委員規則案ヲ收回シテ別ニ農商工諮

問會規則ノ改正案ヲ上申セリ然ルニ其改正案ハ客冬參事院ノ會議ニ於テ廢棄ニ付シタルヲ以テ今回更ニ進ミテ農商工諮問會規則ヲ廢止セントスルニ至レリ蓋シ現行農商工諮問會規則ノ實際ニ施行シ難キハ本員ノ客歲本席ニ在テ縷縷陳述シタル者ノ如シ是レ本案ノ發布ヲ要スル所以ナリ尙ホ質疑有ラハ隨テ答辨セン畢竟前陳ノ如ク實際ニ施行シ難キ農商工諮問會規則ヲ存スルモ到底虛文ニ屬スルニ由リ斷然本案ヲ發シテ之ヲ廢止シ從前ノ布告ニ換ルニ布達ヲ以テシ府知事縣令ノ意見ヲ以テ適宜ニ勸業委員ヲ置クコトヲ得ルノ制度ト爲シ其費用ハ勸業費ヲ以テ之ニ充テシムルノ豫圖ナリ各位幸ニ之ヲ諒シ本案ノ如ク議定アラシコトヲ冀望ス

○番一安場保和

本案ヲ本院ノ議定ニ付セラレタル理由ハ只今番外二

番ノ陳述シタル如クナレハ他別ニ説明ヲ要セサレトモ現行法タル十四年第二十九號布告農商工諮問會規則ヲ廢止シ後來如何ナル處分ヲ爲ス耶ノ一點ニ關シテ聊カ一言セントス抑モ勸業委員諮問會等ノ今日ニ必要ニシテ此規則ノ存廢ハ大ニ各地方ノ民心ニ關係ヲ及ホス可キモ奈何セン其規則ノ畫一ヲ要スルヨリシテ實際ニ施行スル能ハサルニ至レルハ番外二番ノ既ニ辨明シタル如クナルヲ以テ今回第二十九號布告ヲ廢止シ各地方ノ實況ニ應シ縣令郡區長等勸業ノコトヲ諮問セント要セハ適宜ニ諮問會ヲ開クヲ得セシメントスルノ旨趣ニシテ是レ本邦現時ノ實況ニ適合ス可シトスル主務省ノ意見ナリ然リ而シテ閣議モ亦之ヲ是認シタルナレハ參考ノ爲メニ敢テ各位ニ陳告スルノミ

○十七番 伊丹重賢

本案ニ對スル本官ノ意見ヲ陳ソニ抑モ十四年第二十
九號布告農商工諮問會規則ハ便宜布告セル後ニ本院ノ檢視ニ付セ
ラレタルヲ以テ當時本官等其可否ヲ論スル能ハサリシカ客歲ニ至
リ其實施上ニ障礙アルヲ以テ之ヲ廢止シ更ニ勸業委員規則ヲ制定
スル議案ヲ本院ノ議定ニ付セラレタリ然レトモ其法案ハ內閣ノ通
牒ヲ得テ本院第一讀會ヲ經過セシノミニシテ直チニ內閣ニ繳還シ
タリ回顧スレハ其法案ノ第一讀會ノ景況タル議場ノ意見ハ概チ大
修正ト全廢棄トノ二說ニ歸シ下付原案ニ左袒スル論議ハ毫モ之ヲ
聞カサリキ本日內閣委員モ說明セル如ク現行農商工諮問會規則ニ
關シテハ農商務卿向キニ各地方長官ノ意見ヲ諮詢シタルニ其意見
ハ現行法ノ如クシテ障礙無シ現行法ハ改正ヲ要ス現行法ハ廢止ス

可シトノ三様ニ出テ其現行法ノ如クシテ障礙無シトスル者ハ僅僅
九縣ニ過キスト云フ客歲ニ於テスラ尙ホ其各地方ニ行ハレ難キコ
ト此ノ如クナレハ今日之ヲ廢止セントスルハ既ニ已ニ晚キヲ覺フ
故ニ本官ハ之ニ同意シ速カニ本案ヲ發布スルヲ望ム但シ此ノ如ク
論スルモ本官ハ素ヨリ農工商ノ業ヲ勸ムルハ美事ニ非スト謂ハサ
レトモ止タ其法則ノ全國ニ畫一ナラシメス之ヲシテ實際ニ行レ易
カラシメンコトヲ要ス然リ而シテ其實際ニ行レ易カラシムル方法
ノ如何ハ本官未タ之ヲ知り得サレトモ本案ヲ發スルハ先ツ吾カ心
ヲ獲タル者トス因テ此ニ吾カ賛成ノ意ヲ表ス

○九番 柴原和

本官モ本案ヲ賛成ス十七番ノ言ヘル如ク十四年第二十
九號布告農商工諮問會規則ハ便宜布告セル後ニ本院ノ檢視ニ付セ

ラレタル者ニシテ爾後一年ヲ經テ昨十五年四月ニ至リ其規則ヲ廢止シ更ニ勸業委員規則ヲ制定スル議案ヲ本院ノ議定ニ付セラレタリ當時內閣委員ノ言ニ第二十九號布告ニ關シテハ農商務卿ヨリ現行法ノ可否ヲ各地方長官ニ諮詢セシニ其答申ハ立存改正廢棄ノ三様ニ分レ其立存ス可シト言フ者ハ九縣其修正ス可シト言フ者二府十五縣ニシテ他ハ皆廢棄ス可シト言フト雖モ本官ハ以爲ラク各地方官ノ意見モ概ネ其想像スル所ヲ答申シタルニ過キスト何トナレハ其現行法ヲ改正シ廢棄ス可シトスルノ二說モ未タ充分ナル實驗ヲ經タルニ非サルニ遽ニ改正シ廢棄セントスルハ所謂朝令暮改ノ誹ヲ免ル可ラサルヲ以テナリ故ニ本官ハ其議案ニ對シ大修正ヲ加フ可シトノ意見ヲ述ヘタリシカ當時議場ノ景況ハ幾ント廢案論ノ

一偏ニ傾向セシニ其第二讀會ヲ開クニ先タナ內閣ノ要求ニ因テ議案ヲ繳還シタリ然ルニ今日本案ヲ下付セラルルニ至レルハ定メテ內閣ニ於テ更ニ充分ナル審議ヲ加ヘラレタルニ由ルナラン回憶スレハ客歲勸業委員規則制定議案ノ第一讀會ニ方リ當時廿三番即今八番ノ議官ハ其法案ヲ廢棄シ尙ホ現行法タル農商工諮問會規則ヲ廢止ス可シトノ意見ヲ述ヘ且其布告案ヲ「明治十四年^五第二十九號布告農商工諮問會規則ヲ廢止ス右奉勅旨布告候事」ト修正セント豫陳シタリ是レ客歲ニ在テハ少シク朝令暮改ノ誹ヲ免レサル如キモ今日ニ於テ之ヲ觀レハ謂ツ可シ八番議官ハ先見ノ明アリシト當時若シ其法案ノ爲メニ第二讀會ヲ開キタラハ八番議官ハ前陳ノ修正說ヲ提出シ而シテ其果シテ行ハレタルヤ客歲ニ在テ既ニ本案ヲ

發布スルヲ得タルナラン要スルニ本案ヲ發スルヲ可トス因テ大ニ之ヲ贊成ス

○二番楠本正隆 本官モ本案ニ同意ス抑モ農商工諮問會規則ノ實際ニ施行シ難キ理由ハ其法則ノ畫一主義ニ成レルト其費用ハ協議費ヨリ支辨セシメ而シテ其議員ハ府知事縣令ノ特選ニ係ルモ毫モ議權ヲ與フル無ク唯タ諮問ノミニ止ルトニ存スルヤ言ヲ待タス客歲現行ノ規則ヲ廢止シ更ニ勸業委員規則ヲ制定スル議案ノ第一讀會ニ際シ滿場概子不同意ヲ唱ヘシモ亦其新法ノ高尚ニ失シテ民俗ニ適セズ法則ノ畫一ニシテ實際ニ施行シ難キニ由レリ今ヤ內閣委員ノ辨明ニ依レハ本案ヲ以テ先ツ現行ノ規則ヲ廢止シ而シテ此規則ニ關スル事項ハ各地方官ノ適宜處分ニ委スルコトヲ布達セントスルノ

旨趣ナリト言ヘリ是レ本官ノ大ニ満足スル所トス從來農商工諮問會ノ如キ或ハ官定ノ規則ニ因テ成立シ或ハ人民ノ情願ニ因テ成立ス現ニ東京大阪等ハ人民ノ情願ニ因テ成立セリ蓋シ各地方其宜キヲ異ニスル以上ハ自ラ然ラサルヲ得サレハナリ其レ然リ從來官定ノ規則ニ因テ成立セル者ハ幾ント廢止ノ狀ヲ呈セルヲ以テ此際現行ノ規則ヲ廢止シ之ニ換ル恰好ノ布達ヲ發下セスハ或ハ人民ヲシテ我政府ハ勸業ノ事務ニ意ヲ注カサル乎トノ感觸ヲ生セシムルノ恐レ無キ能ハス故ニ本官ハ客歲ニ於テハ法律上ノ大綱ノミヲ提起シテ畫一ノ法則ヲ廢止セント言ヒタリシカ即今內閣委員ノ說ク所ヲ聞クニ恰モ本官ノ冀望セル點ニ違ハサルカ如シ因テ請フ本官等ノ參考ノ爲メニ其布達ノ旨趣ノ果シテ那ノ點ニ出ル耶ノ説明ヲ

與ヘンコトヲ

○番二番落合 二番ノ請求ニ應シ更ニ發布セントスル布達ノ旨趣ヲ
外二番濟三 陳述セン抑モ農商務卿ノ上申ハ農商工諮問會ヲ開クコトヲ單行ノ
布告ト爲シ勸業委員ヲ設ルコトヲ布達ト爲スニ在リシモ内閣ノ意
見ハ二者併セテ布達ト爲サント云フニ在リ而シテ其布達案ハ目今
査理中ニ係ルヲ以テ本員之ヲ明言スル能ハスト雖モ農商務卿ノ上
申セル文案ハ「府縣ニ於テ農商工業ノ上進ヲ圖ルヘキ爲メ管内農商
工事ニ名望アルモノヲ招集シテ諮問會ヲ開クコトヲ得該會ニ要ス
ル會員ノ旅費日當ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨シ其他ノ雜費ハ府
縣ノ廳費ヲ以テ支辨スヘシ」ト爲シ而シテ別ニ勸業委員條項ナル者
六條ヲ設タルヲ要セリ今其大要ヲ撮メハ第一ニハ每區町村及ヒ聯

合區町村ニ勸業委員ヲ置クヲ得其人員及ヒ處務規程選舉方法在職
年期等ハ每區町村會及ヒ聯合區町村會ニ於テ之ヲ決定シ府知事縣
令ノ認可ヲ請フ者ト爲シ第二ハ每區町村及ヒ聯合區町村ニ農業會
工業會商法會議所若クハ農商工併合勸業會ヲ設立スルニ當リ勸業
委員ヲシテ其會員タラシムルコトヲ得ル者ト爲シ第三ハ府知事縣
令ニ於テ勸業委員ノ設置及ヒ農業會工業會商法會議所若クハ農商
工併合勸業會若クハ其他ノ同業會ノ設立ヲ要用ト認ルトキハ誘導
シテ之ヲ設置セシムルヲ得ル者ト爲シ第四ハ勸業委員ノ旅費日當
等ハ每區町村會及ヒ聯合區町村會ノ決議ヲ以テ額定シ協議費ヨリ
之ヲ支辨シ又ハ關係各業者ニ分擔セシメテ協議支辨ト爲スコトヲ
得ル者ト爲シ第五ハ勸業事務ニ關シテ戶長郡區長縣令府知事農商

務卿ヨリ諮問スル事件アルトキハ之ヲ審議シテ其意見ヲ開申ス可
キ者ト爲シ第六ハ各會ノ議事規則ハ各會ニ於テ之ヲ創立シ府知事
縣令ノ認可ヲ請フ可キ者ト爲セル是レナリ現時各區町村頻頻ニ農
商工業談話會等ヲ起ス有リ又各府縣ニ勸業用掛リト稱スル吏目ヲ
置ク有リ故ニ此等ノ事項ハ布達ヲ以テ粗ホ一定ニ出テシメ他ハ總
テ府知事縣令ノ便宜處分ニ委スルノ旨趣ナリ但シ是レ前陳ノ如ク
其事方サニ查理中ニ係ルヲ以テ布達ヲ發下スル時ニ至ラハ多少ノ
變更ヲ見ルハ素ヨリ豫知ス可カラス請フ幸ニ之ヲ諒セヨ

○八番箕作
麟祥

本案ニ關シテハ番外一番及ヒ番外二番ノ詳細ナル辨明
ヲ得テ全ク其旨趣ヲ領會セリ本官ハ過刻九番議官ノ陳述セル如ク
客歲五月ニ於テ十四年第二十九號布告農商工諮問會規則ヲ廢止シ

更ニ勸業委員規則ヲ制定スル議案ヲ議スルニ當リ廢案論ヲ首唱セ
リ然ルニ今ヤ本官ノ意見ノ如ク當ニ客歲下付セシ勸業委員規則案
ヲ廢銷セラレタルノミナラス現行法タル十四年第二十九號布告農
商工諮問會規則ヲ廢止セントスルニ至リシハ本官等ノ大ニ満足ス
ル所ニシテ內閣ノ注意ハ眞ニ賞讚ス可キナリ因テ謹テ本案ヲ贊成
ス然ルニ只今番外二番ハ本案ヲ發布スル後ニ發下セントスル布達
ノ大綱ヲ説明セリ原來布達ニ關シテハ本官等敢テ喙ヲ容ル、ノ權
ヲ有セスト雖モ二番ノ質問セルト同シク本官モ亦參考ノ爲メニ聊
カ質問スル所アラントス夫レ本案ヲ發布スルトキハ地方稅中ノ勸
業費ノ科目アルニモ關セス凡ソ勸業上ノ法律ハ悉皆廢滅ニ屬スル
者ノ如シ然ルニ布達ヲ以テ從前ノ如ク若干名ノ勸業委員ヲ置キ其

旅費日當等ヲ勸業費ヨリ支辨スル者ト爲ストキハ地方稅ヲ議定スル府縣會ニ異議ヲ生スルノ望慮ナキニ非ス何トナレハ府知事縣令ハ勸業委員二十名乃至三十名ヲ置ントスルモ府縣會之ヲ肯セサル場合アラハ他ニ之カ法律ナキヲ以テ其間ニ紛紜ヲ生シ遂ニ參事院ノ裁定ヲ請フニ至ル可ケレハナリ元來本案ヲ發布スルハ本官ノ素ヨリ冀望スル所ナレトモ更ニ布達ヲ發下スル事項ニ關シテ杞憂ヲ懷クコト斯ノ如シ蓋シ是等ハ無用ノ質問ニ似タルモ後日他ノ法案ヲ議定スルニ際シ大ニ利便アル可シト信スルヲ以テ幸ニ番外ノ說明ヲ得ン

○番二番落合 濟三

善哉問ヤ抑モ今回設置セントスル勸業委員ナル者ハ前日ヨリ之ヲ豫定シ其要用ノ時ニ方リテ招集スルニ非スシテ府縣

管轄内ノ名望アリテ農商工ノ事業ニ老練ナル者ヲ臨時ニ招集シ以テ諮問スルニ過キス畢竟スルニ府知事縣令ノ顧問ニ備ル者ナリ故ニ勸業委員ヲ招集セルヤ其旅費日當等ハ地方稅中ノ勸業費ヨリ支辨シ其他ノ雜費ハ府縣廳費ヨリ支辨ス而シテ是等ノ措置ヲ取ルハ府知事縣令ノ權内ニ存スルナリ抑モ地方ノ老農豪商等ヲ招集シテ其意見ヲ諮問シ勸業ノ上進ヲ圖ル如キハ府知事縣令ノ一大要務ニ屬シ而シテ勸業費ハ十九費目中ノ其一ニシテ豫テ府縣會ノ議定ヲ經テ定額ノ準備アルニ因リ勸業委員ノ旅費日當等ハ其計内ヨリ支辨シ雜費ハ府縣廳費ヨリ支辨スルハ毫モ妨ケ莫シトス又其定額ノ豫算ニ關シテハ府縣會充分ニ討議ス可ク萬一ニモ府縣會ト府知事縣令ト意見ヲ異ニスルモ府知事縣令ニ於テハ不認可權ヲ有スルヲ

以テ之カ爲メニ參事院ノ審理ヲ仰ク如キコトハ決シテ之レ無キナ
リ

○廿四番 津田眞道

本官モ本案ニ同意ス抑モ勸業ノ事タル畫一ノ法則ヲ
施行セント欲スルモ到底實際ニ施行スル能ハサルハ是レ本ト各地
方其宜キヲ異ニスルカ爲メニシテ勢ヒ已ムヲ得サルノミ聞ク農商
工諮問會規則ヲ制定スルニハ專ヲ獨逸國ノ制度ニ照準シタリト是
レ我國ノ實際ニ施行スル能ハサル原因ニシテ彼ニ取テ直チニ我ニ
用ヒントスルノ當否如何ハ復々特ニ論辨ヲ俟タサル可シ獨リ此規
則ノミ然ルニ非ス其以テ必ス畫一ナルヲ要スル法律ト雖モ漫ニ外
國ノ法律ニ照準スルトキハ之ヲ實際ニ施行スルニ方リ往往ニ障碍
ヲ生シ臍ヲ噬ムノ悔アルハ蓋シ各位モ心ニ記スル所アル可シ然ル

ヲ況ヤ此規則ノ如キ毫モ畫一ナルヲ要セサル者ヲシテ強テ之ヲ畫
一ナラシメント爲シタルヲヤ本官以爲ク民法ノ如キ全國ヲ通シテ
必ス畫一ナルヲ要スル法律ト雖モ猶ホカメテ土地ノ慣習ニ從テ之
ヲ制定スルニ若カス然ルニ風土莫異ナル歐洲ノ慣習ヲ本邦ニ移シ
來リ之ヲ日本ノ法律ト爲サントスルハ甚々條理ヲ失スル措置ニシ
テ是レ俗諺ニ所謂出來ナイ相談ヲ爲ス者ナリト原來法律ナル者ハ
何レノ時代ヲ問ハス其當時ノ民情ニ適應ス可キ者ヲ作爲スルヲ政
畧ノ得タル者ト爲ス八番議官ハ費用ニ關スル質疑ヲ爲セシカ此點
ニ對スル內閣委員ノ辨明ニ因テ既ニ明瞭ナルヲ得タリ其布達ヲ發
下スル以上ハ府縣會若シ勸業委員ヲ置クヲ要セスト爲シ其費用ヲ
負擔スルヲ拒マハ之ヲ置カス否ヲサレハ之ヲ置キテ可ナリ是レ其

土地ノ慣習ト人民ノ嗜好トニ從フノ極メテ要用ナルニ由リテナリ
○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢ル然ルニ第一讀會ニ於テハ一ノ異議無カリシニ因リ例規ニ關セス相續キテ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

布告案

明治十四年五月第貳拾九號布告廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ第二讀會ヲ畢リ更ニ第三讀會ヲ開ク

○廿四番 津田眞道 些事ナレトモ第二讀會ニハ決ヲ起立ニ取ルヲ成規ナ

リト思惟ス

○議長 本席ノ失言ナリ實ニ廿四番ノ言ヲ正當ナリトス因テ此ニ第二讀會ノ決ヲ取ン本案ニ同意者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ハ可ト決シ第二讀會ヲ終リ直チニ

第三讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

布告案

明治十四年五月第貳拾九號布告廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 本案ニ同意者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ハ可ト決シ此ニ第三讀會ヲ畢ル決

議ノ次第ハ例ニ從ヒ上奏ス可シ散會セヨ

午前第十時三十五分閉場

元老院會議筆記明治十六年五月四日

○第三百八十七號議案 徵發令ニ依リ賦課シタル費用怠納者處分方ノ儀 第一讀會

議長代理 東久世通禧

出席議員

- 一番 三浦 安
- 二番 楠本 正隆
- 八番 箕作 麟祥
- 九番 柴原 和
- 十三番 大久保一翁
- 十四番 野村 素介
- 十五番 岩下 方平

- 十七番 伊丹 重賢
- 十八番 津田 出
- 十九番 福原 實
- 二十番 大鳥 圭介
- 廿二番 渡邊 洪基
- 廿三番 河瀬 眞孝
- 廿四番 津田 眞道
- 廿六番 鷺尾 隆聚
- 卅一番 海江田信義
- 卅三番 鍋島 幹
- 卅五番 伊集院兼寛

卅七番 西村 貞陽

内閣委員 一番外 参事院議官 田中 光顯

同 二番外 参事院議官補田口 憲

午前第十時五十分開場

○議長 本日ハ第三百八十七號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ遵ヒ發議ス可シ

書記官 森山 茂 朗讀

徵發令ニ依リ賦課シタル費用ノ怠納者ハ明治十年^{十一月}第七拾九號布告ニ依リ處分ス可シ但財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス
右費用ニ關シ不服アル者ハ明治十五年^{五月}第貳拾貳號布告ニ依ル可

右奉勅旨布告候事

○番二番田口
外二番惠

本布告ノ發表ヲ要セラル、主意ハ明ラカニ法案ノ表
ニ顯ハレタルヲ以テ更ニ喋々ヲ須ヒサルモ仍ホ其議定ノ神速ナラ
シヲ欲スルカ爲メニ一辨セン抑モ今回本案發表ノ要旨ハ十五年八
月第四十三號布告徵發令ノ發行ニ起因シ而シテ其徵發令ヲ發行セ
シ所以ハ從前戰時若クハ事變ニ際シ所要ノ軍需ヲ徵發スルノ例規
ナキカ故ニ有事ノ日ニ方リ其之ヲ徵發セントスルモ毎ニ其欲スル
所ニ任セス或ハ一時便宜ニ之ヲ調便スルモ多クハ投機者ノ奇貨ト
爲リ物價ノ不平均ヲ來シ官民共ニ其弊ヲ被ルコト少小ナラス之ニ
加フルニ他日精算ヲ爲スニ當リ條緒錯綜其不便言フ可ラサル者ア

シ
リ是ヲ以テ政府我國ノ古制ニ則トリ且歐米各國ノ近例ヲ酌ミ以テ
徵發令ヲ發布シ其徵發區域ヲ定メ而シテ其區内ノ府知事縣令以下
ニ在テハ戰時若クハ事變ニ際シ時期ヲ誤ル無ク其供給ヲ全タカラ
シムルノ責任ヲ有スル者ト爲シ又價格ノ豫定ヲ要スル者ハ數年間
ヲ平準シテ其額ヲ定メ若シ供給者ト價格ノ熟議ニ至ラサル者ハ之
ヲ評價委員ニ付シテ額定セシムル等種ヤノ方法順序ヲ設ケ務メテ
不平均ナカラシメントスルニ在リ然リ而シテ徵發令ニ依リ軍需ノ
物品ヲ調達スルハ即チ徵發區ノ責任タル勿論ニシテ其代價ハ時々
官庫ヨリ之ヲ賠償スルモ其物品ヲ調達運搬等例ハハ米麥秣芻ヲ輸
送スルノ際雨露ヲ防クカ爲メ或ハ小屋掛ヲ爲スカ如キ費用ノ類ハ
固ヨリ徵發區ノ負荷ス可キ所ナルヲ以テ其區限り適宜ノ方法ニ依

六
リ之ヲ賦課シテ以テ之カ支消ヲ爲ス可キ者トス蓋シ此場合ニ方リ
若シ或ハ一人乃至數人ノ特志者アリテ其全區ニ代リ自資ヲ抛チ之
ヲ支辨セントスルカ如キハ則チ其意ニ任セ強テ全區ノ負擔ト爲ス
ヲ須ヒスト雖モ苟クモ全區ノ支辨ニ係ルトキハ之ヲ一般ニ賦課セ
サルヲ得ス既ニ一般ニ賦課スルニ至ラハ或ハ罕ニハ怠納者ナキヲ
保スル能ハス故ニ其場合ニ在テハ如何ナル方法ニ依リ之ヲ處辨ス
可キヤ未タ一定ノ法規ナキカ爲メ各地方官ノ疑擬スル所ト爲リ陸
續稟議スル者アリ乃チ之ニ對シテ相當ノ指示ナカル可ラス是レ本
案ノ發布ヲ要スル大旨ナリ蓋シ本案ノ起草ニ際シ異議交モ生シ或
ハ十三年第三拾壹號布告備荒儲蓄法ニ依ル可キ者ナリト云又ハ地
方稅ニ係ル内務大藏兩省ヨリ達スル所ノ細則ニ依準ス可シト云或

七
ハ町村聯合協議ニ歸ス可キ者ナリト爲シ殆ト本案ヲ要セサル者ノ
如ク論セシモ備荒儲蓄法ハ即チ備荒儲蓄法ニシテ素ヨリ本案ノ費
用ノ怠納者ヲ處分スルノ方ニ合セス其他ノ諸規則モ亦皆其用所ヲ
異ニス故ニ本案ヲ發布スルニ非サレハ遂ニ其處分ヲ明ニスルコト
能ハスト爲シ下付議定ノ順序ニ至レリ蓋シ本案ナル一ハ法律ノ不
備ヲ補ヒ一ハ地方官ヘ指示スルノ地歩ヲ定メントスル者ナリ夫レ
徵發令タル固ヨリ其非常ニ際シ用フ可キ者ナルモ之ヲ平時ニ鍛鍊
シ實際ニ遺憾ナカラシメンカ爲メ第一條ニ但書ヲ加ヘ「平時ト雖モ
演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス」トシ夫ノ從前軍人軍隊ノ旅行ニ方
リ各地方ニ於テ支障ナク人馬ヲ供スル云々ノ規則ヲ廢セリ本案ノ
如キモ亦此意ト同シク若シ成文ヲ以テ規定スルニ非サレハ有事ノ

日ニ當リ遂ニ憑準スル所ナキニ困シマン是故ニ此案ヲ發表スルニ至ルヤ曾テ各府縣ヨリ參事院內務省及ヒ陸軍海軍兩省へ稟申シ隨テ各衙ヨリモ其徵發令ニ明載ナキノ故ヲ以テ內閣ノ指示ヲ請ヒシ者ハ悉皆結局スル所アラントス敢テ望ム前陳要急ノ事情ヲ洞悉シ以テ速ニ議決セラレンコトヲ且本官ハ訥辨ニシテ充分其意旨ヲ罄ス能ハス故ニ其足ラサルハ質問アルニ從テ之ニ對ヘントス

○八番 箕作麟祥

本案ノ必用ナル所以ハ內閣委員ノ辨明ニ因テ領解スルヲ得タルモ此ニ少シク疑ヒヲ存セリ本案徵發令ニ依リ賦課シタル費用云々ノ一事是レナリ蓋シ徵發令第十二條ニ其徵發ス可キ物品ノ種目ヲ掲ケ第十三條ニ於テ戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キ者ノ種目ヲ載セ而シテ平時ノ演

習及ヒ行軍ニハ徵發セサル旨ヲ細掲セリ是皆現品ヲ以テ徵發ニ應スル者ナレハ其徵發區ノ負擔タルヤ素ヨリ論ナク其物品モ亦反復掲載シテ餘ス所ナシ之ヲ以テ之ヲ觀ハ本案ノ費用ト稱スルハ所謂現品ニ非ス即チ徵發令第九條ノ「徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ」ト有ルヲ指スノ謂ナリヤ又第三十條ニ「徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス」ト有リ既ニ其輸送賃ヲ支辨セスト云ハ、是亦本案ノ費用ノ一部分ニ屬スル者ノ如シ果シテ然ラハ本案ノ徵發令ニ依リ賦課シ

タル費用トハ即チ徵發令第九條第三十條ノ事項ニ適應ス可キ者ト認メテ可ナリヤ畢竟本案第二項ニ「右費用ニ關シ不服アル者ハ明治十五年^{五月}第貳拾貳號布告ニ依ル可シ」ト有ルヲ以テセハ其現品ニ非サルヲ知了スト雖モ抑モ其費用トハ如何ナル者ヲ言フヤ確認スルニ由ナシ請フ辨明セヨ

○^外番^二番^田口 八番ノ質疑ニ答ヘン徵發令ニ依リ賦課シタル現品ノ價格ハ數年間ノ平均ヲ取り又ハ評價委員ノ評定ニ據リ官ヨリ之ヲ賠償スル者ニシテ素ヨリ徵發區ノ負擔ニ非ス然ルニ本案ノ費用ト稱スルハ八番ノ見解ノ如ク徵發令第九條ノ場合及ヒ第三十條ノ輸送賃ニ論ナク其未タ文面ニ露ハレサル者ト雖モ前二條ニ類似スル者ハ例推シテ都テ本案ニ掲クル所ノ費用中ニ包含スル者ト認メハ

可ナラン

○十七番^{伊丹重賢}

内閣委員ノ辨解ニ因リ畧本案ノ要領ヲ得タリ抑モ徵發令ノ如キ固ヨリ本院ノ議定ヲ經ヘキ者ナルモ偶々朝鮮事件ノ起ルニ際シ特ニ急施ヲ要スルヲ以テ時勢已ヲ得スシテ便宜布告ノ後檢視ニ付セラレタリ故ニ該令中往々ニシテ其意ヲ詳悉スルヲ得サル者アリ當初本案ヲ查スルニ「徵發令ニ依リ賦課シタル費用ノ怠納者ハ明治十年^{十一月}第七拾九號布告ニ依リ處分ス可シ」ト云ヘル十年第七拾九號ノ布告タルヤ即チ租稅未納者處分方ニシテ專ラ租稅ノ徵收ニ關スル者ナリ既ニ徵發令ニ依リ徵發セシ者ハ官ヨリ之ヲ賠償スルノ例ナルトキハ更ニ第七拾九號ニ依リ云々ト有ルハ將タ如何ナル者ヲ處分スルヤノ疑惑ナキ能ハサリシ然ルニ即今八番ト内

閣委員トノ問答ニ依リ其費用ハ現品ニ非ス即チ徵發物件ノ收集方及ヒ輸送等ヨリ生スル費用ナリト謂フヲ知り始メテ第七拾九號ニ依リ處分スルノ允當ナルヲ覺フ因テ本案ノ大體ニ賛成ノ意ヲ表スルコト爾リ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ハ此ニ了ル

○番外二番田口 本案ハ普通議案ノ如ク敢テ急決ヲ要セサル者ニ似タルモ其實神速ニ之ヲ施行セサレハ諸方ノ稟議ニ答フル能ハス又各府縣ニ於テ之カ章程ヲ定メントスルモ得ヘカラス事務ノ滯否ハ全ク此案ノ遲速ニ在リ現況既ニ此ノ如シ願クハ本日直ニ第二讀會ヲ開カンコトヲ

○議長 番外二番ノ請求ハ直ニ第二讀會ノミヲ開クニ在リヤ

○番外二番田口 第二讀會了ラハ續テ第三讀會ヲモ開カレンコトヲ請フノ意ナリ

○九番柴原 和 內閣委員ハ直ニ第二讀會ヲ開カンコトヲ請求スルモ本官ハ之ニ同スル能ハス蓋シ舊冬以來續々下付セラル、議案ハ多クハ要急ノ意ヲ以テセリ故ニ已ムヲ得ス之ヲ規外ト爲シ直ニ第二三讀會ヲ續開シテ之ヲ議定セシト雖モ本案ノ如キハ敢テ然ル者ニ非ス且八番議官ノ質議セシ意匠ヲ察スルニ或ハ修正ヲ加ヘントスル者ノ如ク若シ夫レ之ヲ修正セントセハ素ヨリ多少考案ノ日時ナカル可ラス本官ハ議事ノ鄭重ナランコトヲ欲スルヲ以テ本日直ニ第二讀會ヲ開クヲ非トス敢テ請フ議事規則ニ依遵センコトヲ

○番外二番田口 本員ノ請求ニ對シ九番ノ議事規則ニ依遵セント云フ

ハ一理ナキニ非サレトモ畢竟本案ハ徵發令ニ胚胎シ戰時若クハ事變アルニ際シ直ニ之ヲ實行セントスル者ナレハ其事ノ何時ニ生スルモ知ル可ラス是レ他法ト同視シ緩々ニ付ス可ラサル者トス況ンヤ輓近各府縣ニ於テ兵事ノ一課ヲ置キ平素此事ニ從ヒ不時ノ用ニ應セントスルヲヤ滿場ノ各位此意ヲ察シ本員ノ請求ヲ賛成センコトヲ望ム

○一番^{三浦安} 本官モ本案ノ大體ヲ賛成スト雖モ直ニ第二讀會ヲ開カントスルノ請求ニハ首肯スル能ハス本案タル其急施ヲ要ス可キ者ナリヤ否ハ一目シテ識別スルヲ得ヘシ殊ニ其急施ヲ要ス可キ法案ナルトキハ必ス別ニ内閣ノ通牒ヲ副フルヲ例トス本案固ヨリ然ルニ非ス且假令成規ニ準依シ之ヲ議到スルモ決シテ十數日ヲ空過ス

ル者ニ非ス若シ第二讀會ニ方リ紛議ナクンハ須ラク直ニ第三讀會ヲ開クヘシ要スルニ直ニ第二讀會ヲ開クハ不可ナリ

○議長 番外二番ハ本日直ニ第二讀會第三讀會ヲ開カンコトヲ請求セリ其請求ニ應セントスル者ハ起立セヨ

起立者一人

○議長 小數ナルヲ以テ番外二番ノ請求ハ消滅ス因テ來ル七日例刻ヨリ本案第二讀會ヲ開カン散會セヨ

午前第十一時三十分閉場

元老院會議筆記明治十六年五月七日

○第三百八十七號議案徵發令ニ依リ賦課シタル費用怠納者處分方ノ儀 第二讀會

議長代理 東久世通禎

出席議員

- | | | |
|-----|-----|----|
| 一番 | 三浦 | 安 |
| 二番 | 楠本 | 正隆 |
| 八番 | 箕作 | 麟祥 |
| 九番 | 柴原 | 和 |
| 十番 | 本田 | 親雄 |
| 十三番 | 大久保 | 一翁 |
| 十四番 | 野村 | 素介 |

- 十七番 伊丹 重賢
- 十八番 津田 出
- 十九番 福原 實
- 二十番 大鳥 圭介
- 廿一番 鍋島 直彬
- 廿二番 渡邊 洪基
- 廿三番 河瀬 眞孝
- 廿四番 津田 眞道
- 卅一番 海江田信義
- 卅五番 伊集院兼寛
- 卅七番 西村 貞陽

内閣委員 一番外 参事院議官 田中 光顯

同 二番外 参事院議官補田口 惠

午前第九時三十分開場

○議長 第三百八十七號議案ノ第二讀會ヲ開ク書記官朗讀後例ニ遵

ヒ發議ス可シ

書記官 森山 茂 朗讀

徵發令ニ依リ賦課シタル費用ノ怠納者ハ明治十年十一月第七拾九號
布告ニ依リ處分ス可シ但財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ徵發區
ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス

右費用ニ關シ不服アル者ハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ル可

シ

右奉 勅旨布告候事

○八番

辨作

本官ハ前會ニ於テ内閣委員ニ對シ本案ノ主旨ノ解シ難

キ者ヲ質問シ詳細ナル説明ヲ得テ稍之ヲ會得スルヲ得タルカ如キ
モ其説明ヲ得サル以前ハ頗ル解釋ニ困シメリ是レ獨リ本官ノミ然
ルニ非ス他ノ議官ニ於テモ或ハ然ル者アリ因テ更ニ其明亮ヲ欲シ
「徵發令ニ依リ賦課シタル費用ノ怠納者ハト有ルヲ徵發令ニ依リ
軍需賦課ノ爲メニ生シタル費用ノ怠納者ハト爲シ又其二項ノ「右費
用ニ關シ不服アル者ハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ル可シト
有ルヲ右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年五月第貳
拾貳號布告ニ依ル可シト修正セントス此ニ修正ノ理由ヲ陳シ本
案第一項ニ掲クル費用ノ怠納者タル者ハ其實徵發令第一條ニ在ル

「徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動
カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法ト
ス」トノ原則ニ起因シ其第九條ニ「徵發ヲ課セラレタルモノハ時期
ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違
フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シ
タル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム云々」又其第二十條ニ「徵發
物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セ
ス」ト有ルカ如ク是レ一トシテ軍需賦課ノ爲メニ生セサルハ莫シ且
軍需ハ究メテ時機ノ失セザランコトヲ要スルヲ以テ豫メ其方法ヲ
確定ス可キハ固ヨリ其所ナリ是レ即チ本官ノ軍需ノ文字ヲ加フル
ヲ必用トシ此修正說ヲ提出スル所以ナリ然ルニ第二項ノ如キハ其

實ハ費用ニ關スル不服者ニ非スシテ即チ右費用ニ關スル處分ニ對シテ不服ヲ唱フル者ヲ指スノ意ニ外ナラス若シ然ラスシテ實ニ費用ニ關スル不服者ナリトセハ明治十五年第貳拾貳號布告ニ依ルヲ得サル可シ何トナレハ其費用ノ負擔ハ既ニ徵發區ノ免ル可ラサル者ナレハナリ果シテ然ラハ第二項ノ費用ニ關シト有ルハ費用其物ニ非スシテ即チ費用ニ關スル處分ニ就テノ不服者ニ外ナラサルニ依リ之ヲ明掲シテ以テ其惑ヒ無カラシムルヲ要ス是レ第二項ヲ修正セントスルノ理由ナリ蓋シ明治十五年^五第貳拾貳號布告ニハ課稅ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ云々ト有リテ全ク本官ノ修正ト其趣ヲ一ニセリ故ニ此ノ如ク修正セハ一ハ以テ其意義ヲ達シ一ハ以テ其文體ヲ一ニスルノ兩便アリ敢テ此說ノ

成立センコトヲ望ム

○九番柴原和

八番ノ修正說ヲ贊成ス其理由ハ發議者ノ詳述ニ讓リテ本官ノ贅及ヲ要セス蓋シ本案ノ簡單ナルニ拘ハラヌ既ニ各位ノ疑フ所トナリシモ今ニシテ此好修正說ノ出ルニ遭フ是レ特リ文義ノ穩當ナルノミナラス大ニ本案ノ精神ヲ發揮セリ本官ハ前會ニ於テ內閣委員ノ請求ヲ斥シ規則ニ依準シ本會ヲ開キ更ニ熟考ヲ加ヘテ好修正說ノ出シコトヲ期望セシニ果シテ此妙案ヲ得タリ豈満足ノ至リナラスヤ

出席

十五番

岩下 方平

○十七番伊丹重賢

贊成ス夫レ本案ノ賦課シタル費用云々ノ文字ハ意義曖昧ニシテ歸着スル所ヲ知ラス然ルニ八番ノ修正ノ如クハ判然

其指示スル所アリテ其間ニ毫モ疑點ノ存ス可キ無シ蓋シ本官モ亦
既ニ修正ノ腹稿アリテ其意畧八番ノ説ト同シ唯僅ニ異ナル所ハ軍
需ノ文字ナキノミ然ルニ其文字ノ有無如何ヲ考量スルニ寧口之レ
有ルノ優レルニ如カストシ即チ自説ヲ措テ八番ノ修正ヲ賛成スル
ナリ若シ夫レ八番ノ説ニシテ消滅スルカ如キコト有ランニハ本官
ハ更ニ自説ヲ提出セント欲スルモ惟フニ八番ノ説ハ修正ノ上乘ニ
位シ必ス其成立ス可キ者タルヲ信ス

○議長 八番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トス

出席

廿六番

鷺尾 隆聚

○番二番田口 本案第一項第二項ニ係ル八番ノ修正説ハ現ニ議場ノ
外二番應 問題ト爲レリ本員之ニ對シテ一言ナキ能ハス蓋シ八番ノ論旨ハ稍

穩當ニシテ道理ニ適フカ如キ感アルモ其實ハ然カラサル者アリ何
トナレハ其修正ノ徵發令ニ依リ軍需賦課ノ爲メ云々ト言ヘル軍需
ノ文字ノ如キハ最モ其宜シキヲ得サル者トス請フ聊カ之ヲ辨セン
元來徵發令ニ依リ賦課スル者ハ一トシテ軍需ニ非サルハ莫シ然ル
ニ事ノ新タニ生セシモノ、如ク之ヲ本案ニ特載スルハ啻ニ其效用
ナキノミナラス體裁ニ於テモ亦以テ其可ナルヲ知ラス加之徵發令
ニ依リ賦課シタル費用ハ他ノ地方稅中土木費等ノ如ク一般ニ賦課
ス可キ性質ヲ有スル者ニ非ス其施設モ亦甚タ異ナリ是レ徵發令第
八條ニ各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス
可キモノトスト有ルヲ以テ知ル可シ故ニ本案ノ費用ヲ支辨スル如
キハ所謂便宜ノ方法ニ依ル者ナレハ其徵發區ノ長タル府知事縣令

以下ノ者ニ於テ時處ヲ酌量シ自ラ別殊異様ノ方法ヲ以テ之ヲ處辨スルヤ明カナリ故ニ此間ニ特志者相謀リテ期限ヲ立テ之ヲ處辨スル者アリ或ハ豪農巨商ノ資財ヲ擲チテ一時ニ之ヲ支消スル者アル等ハ舉テ其區ノ適宜ニ委付スル所ニシテ必スシモ一定ノ法規ヲ設クルヲ要セス畢竟本案ノ賦課シタル費用トハ其徵發區ニ於テ賦課シタル一ノ場合ニ依リテハ此ノ如クス可シトノ意ヲ示ス者ニシテ敢テ令ニ依リ斯ノ如ク賦課シ又斯ノ如ク處置ス可シト謂フニ非ス因テ唯其賦課シタル一ノ場合ヲ示ス者ト視ハ可ナルノミ問題說タル輕々之ヲ看レハ或ハ可ナルカ如キモ前陳ノ意義ヲ以テセハ寧ロ本案ノ簡約ナルニ如カス惟フニ此修正說ノ出ルヤ本案ノ費用トハ或ハ其物品ヲモ混入スルヤ圖ル可ラストスルノ意念ヨリ生セシ者

ナランカ然ルニ机上ニ於テ之ヲ觀察セハ或ハ物品ト費用トヲ混同スルニハ非サルカトノ意念ヲ生スルモ敢テ謂レ無キニ非サルモ苟クモ徵發令ニ依リ實際ニ之ヲ徵發スル者及ヒ其徵發ニ應スル者ニ在テハ之ヲ混同セント欲スルモ得ヘカラサル者トス況ンヤ本案ノ文字ニ就テ看レハ明白ニ其費用ノ意タルヲ知悉ス可キニ於テヲヤ依テ本案ノ如ク議定センコトヲ望ム

○廿二番 渡邊 洪基

現問題ト原案トヲ併視スルニ原案モ到底其不明タルハ免ル可ラサルモ之ヲ修正說ニ比スレハ或ハ其優レルヲ覺フ但シ原案ハ頗ル簡單ナルモ其間多少ノ意味ヲ含蓄セリ修正案ハ字面ニ就テ見レハ大ニ發揮タルカ如キモ未タ以テ原案ノ意味ヲ盡サ、ル者アリ故ニ別ニ好修正ノ出ル無クンハ已ヲ得ス原案ノ不充分ナル

モ枉テ之ニ同意セサルヲ得サルナリ蓋シ修正案ノ不可ナル者ヲ指
 點スレハ軍需ノ文字是レナリ抑モ徵發令第一條ニ依リ其所要ノ軍
 需ヲ人民ニ賦課シテ之ヲ徵發スルハ實ニ政府ノ專掌スル所トス然
 ルヲ其軍需ノ文字ヲ本案ニ移シ來リ直ニ之ヲ實行セントスルハ豈
 失當ナラサルヲ得ンヤ但シ徵發令第八條ニ各徵發區ニ於テハ臨時
 徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キ者トスト有ルヲ以テ之ヲ
 見レハ本案ハ特リ其費用ノミナラス乃チ物品ノ幾分ヲモ包含スル
 者ナリト謂ハサル可ラス恰モ是レ從前行ハレシ助郷ノ如ク其地方
 ノ都合ヲ以テ之カ請負ヲ定メ而シテ便宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ處辨
 セシカ如キ意味ハ自ラ案中ニ存スル者ナリ故ニ其已ムヲ得サルト
 キハ之ヲ區中一般ニ賦課シ若シ其怠納者アラハ則チ地方稅ト同一

ノ處分ヲ爲サント欲スル者ナリ但シ之ヲ詳明ニ記載セントセハ本
 案ト雖モ素ヨリ多少ノ文字ヲ加ヘサルヲ得ス又第二項ニ費用ニ關
 スル處分ニ就キ不服アル者ハ云々ト修正セント言フモ是亦一概ニ
 處分トノミ謂フヲ得サル可シ何トナレハ費用ノ徵收方法ニ對シ其
 當ヲ得スト爲スノ不服モ有ル可ク或ハ費用ノ公正ナラストスルニ
 起レル不服モ有ル可シ本案ノ意義タル頗ル廣博ナルカ故ニ其處分
 ノ文字モ亦敢テ可ナラサルニ非サルモ到底其說ノ本案ニ較フレハ
 未タ以テ其窮屈タルヲ免レスシテ遂ニ實用ニ困シムナル可シ是レ
 已ムヲ得ス本案ヲ優レリトスル大意ナリ

○八番 笑作
麟祥

本官ノ修正說ニ對シ内閣委員ハ主トシテ之ヲ抗駁シ或
 議官モ亦否視シ去レリ然レトモ其說タル甚タシキ駁撃ニ非サルヲ

以テ姑ク之ヲ措キ先ツ内閣委員ノ言ニ就テ論辨スル所アラントス
抑モ内閣委員ハ机上ノ理論ハ然ル可キモ實際ニ於テハ然ラスト言
ヘリ然ルニ本官等現ニ立法官ノ資格ヲ有スルヲ以テ机上ニ在テ議
到スルハ則チ職權ノ然ラシムル所ニシテ固ヨリ怪シムニ足ラス顧
フニ内閣委員ハ唯實際ニ適スレハ可ナリ法文ノ如何ハ敢テ顧ミル
ヲ須ヒスト爲スカ果シテ然ラハ本院ノ議定ヲ要セスシテ可ナリ然
レトモ滿場ノ議官ニシテ本案ノ賦課シタル費用云々ノ文字ニ就テ
ハ既ニ大ニ疑團ヲ懷ケリ況ンヤ他ノ人民ニ於テヲヤ畢竟法律ハ條
理ヲ正確ニシ而シテ實際ニ適切ナルヲ貴フ本案ニシテ能ク實際ニ
適スルモノトセハ猶ホ可ナルモ萬一然ラサルトキハ甚タシキ障礙
ヲ來サン故ニ其事實ニ誤惑ノ生ス可キ者アリトセハ之ヲ修正シ文

章ニ明備ナラサル者アラハ之ヲ完美ナラシメンカ爲メ反復討議以
テ議定ヲ期スルハ實ニ本院議官ノ本色ナリ若シ夫レ内閣委員ノ言
ノ如ク法文ノ如何ニ關セス只管實際ニ適セハ足レリトノ一言ヲ以
テ之ヲ蔽ハ、何ソ必スシモ數多ノ日子ヲ耗シ汲々查究スルヲ須ヒ
ンヤ又内閣委員ハ軍需ノ文字ヲ加ヘサルモ人民ハ既ニ之ヲ領會ス
ルヲ以テ無用ノ修正ナリト言ヘリ夫レ一法律ヲ布クヤ設令其人民
ノ解シ得ヘキ者ナルモ仍ホ明且白ナルヲ要ス然ルニ本案ノ如キハ
獨リ明備ナラサルノミナラス殆ト法文ノ體ヲ失シ主旨ノ在ル所ヲ
知ルニ難シ若シ人アリ本案ノ徵發令ニ依リ賦課シタル費用トハ其
何ノ賦課ナリヤト問ヘハ即チ軍需ナリト答フルノ外ナカル可シ故
ニ其精神ヲ明確ニセント欲セハ必ス賦課ノ上ニ軍需ノ文字ヲ加ヘ

サル可ラス蓋シ是レ看易キ理ナリ譬ヘハ本案ニ明治十年十一月第七拾九號布告ニ依リ云云ト有ルモ止々其簡便ヲ主トスト言ハ、即チ明治十年第七拾九號布告ニ依リ云ヤト爲サハ足ラン然ルヲ特ニ十一月ノ傍註ヲ加ヘシハ全國人民ヲシテ其惑ヒ無カラシメンカ爲メナルニ非スヤ本官ノ修正ニ於ルモ亦然リ又内閣委員ハ問題說ヲ駁シテ曰ク本案ノ賦課トハ他ニ方法ナクシテ費用ヲ一般ニ課シタル時ノコトナリ若シ徵發區ノ長又ハ特志者或ハ豪富者ノ之カ支辨ヲ負擔スル者アルカ如キハ何ソ必スシモ別ニ賦課スルヲ要セン本案ノ意旨タル既ニ此ソ如クナルヲ以テ今故ヲニ軍需ノ文字ヲ加フルトキハ其精神ニ反スト是レ亦解ス可ラサルノ說ナリ若シ本案ニシテ其費用ヲ賦課スルトキニ限り單ニ之ヲ用フルモノト言ハ、本官

ノ修正說モ同ク之カ支辨ヲ負擔スル者ナキヲ以テ已ヲ得ス徵發區ノ一般ニ賦課スル者ト解スルヲ得ヘキヤ論ヲ俟ス故ニ本官ノ修正ニシテ唯賦課シタル時トノミニ聞ユルコト無クシハ本案モ亦賦課シタル時ノミトハ聞ヘサル可シ豈軍需ノ文字ノ有無ニ因リテ其解釋ヲ異ニスルノ理アラシヤ之ヲ要スルニ其之ヲ賦課シ或ハ之ヲ賦課セサル場合ヲ言ントナラハ須ラク修正案ノ如クシテ始メテ其當ヲ得ヘシ

○外一番田中光顯 八番ノ修正說モ亦一理ナキニ非ラサルモ畢竟徵發令

ニ依リ軍需ヲ徵スルハ陸海軍官憲ノ執行スル所ニシテ其徵發區ヲシテ物品ヲ輸送ス可キ義務ヲ負ハシムルモ未タ現金ヲ賦課シテ之ヲ納致セシムルカ如キコトハ有ラサルナリ然ルニ其軍需賦課ノ爲

メニ生シタル費用ト修正スルニ至ラハ或ハ陸海軍官憲ヨリ軍需ノ爲メ往復スル官吏ノ旅費等ヲモ此中ニ包含セルヤトノ誤解者ヲ生スル無キヲ期セス是レ敢テ問題說ヲ難詰スルニ非ス唯本員カ虚心平氣ニシテ考慮スル所ヲ陳スルノミ故ニ其孰レカ是ナリト言ハ、本案乃チ可ナリトス

○番二番田口 本員ノ前論タル敢テ八番ノ說ヲ痛擊セシニ非ス只原案ノ主旨ノ洞達セサルヲ恐レテ之ヲ辨明セシノミ然ルニ本員ノ言語ノ粗漏ヨリ遂ニ八番ヲシテ熱心ニ其說ヲ維持セシムルニ至レリ然レトモ其說タル細カニ之ヲ察スルトキハ大主意ニ渉ル者少クシテ多クハ文字ノ修飾ニ在ルカ如シ此ノ如キハ所謂書生論ト大差ナカラシカ故ニ第一項ニ對シテハ前論ヲ以テ足レリトシ今回ハ其未

タ陳述セサル第二項ノ費用ニ關シ云々ニ就テ聊カ一言セン蓋シ本員ノ前ニ此第二項ニ論及セサリシハ意ナキニ非ス即チ本案第一項ヲ維持シ了ラハ第二項ハ自ラ原文ノ如ク歸著ス可キ者ト信スルヲ以テナリシ然ルニ廿二番ハ適マ第二項ヲ維持スルノ說ヲ爲セリ是レ頗ル事實ニ合致セル者トス夫レ本案ノ費用タルヤ尋常ノ租稅トハ自ラ其趣ヲ異ニス何トナレハ國稅地方稅等ニ對シテハ固ヨリ不服ヲ唱フ可キ理由ナケレハナリ故ニ十五年第貳拾貳號ノ布告ニモ處分ノ文字ヲ以テス本案ノ如キハ然ラス若シ夫レ一ノ特志者アリテ其費用ヲ支辨スルカ如キコト有ラハ敢テ區内一般ニ賦課セサルモ可ナル者ナリ本案ノ費用ト稱スルハ實ニ其費用ノミニ關スル者ニシテ決シテ其處分ニ非ス是レ其文例ヲ一ニスル能ハサル所以ナ